

令和5年度第1回大阪府地域職業能力開発促進協議会

資 料

資料1－(1) 公的職業訓練の実施状況について

資料1－(2) 公的職業訓練の制度別実施状況について

資料2 令和6年度大阪府地域職業訓練実施計画策定方針(案)について

資料3 令和5年度公的職業訓練効果検証ワーキンググループ報告について

資料4 令和5年度大阪府地域職業訓練実施計画変更(案)について

資料5 その他報告内容について

(参考資料) 第1回中央職業能力開発促進協議会資料(抜粋)

【資料 1 - (1)】

公的職業訓練の実施状況について

ハロートレーニング（離職者向け）の令和5年度計画

離職者向けの公的職業訓練の分野別の計画

大阪府

		全体計画数	公共職業訓練（都道府県）		公共職業訓練 （高齢・障害・求職者支 援機構）	求職者支援訓練
			施設内	委託		
分野		定員	定員	定員	定員	定員
公共職業訓練（離職者向け） + 求職者支援訓練（実践コース）	IT分野	2,350	30	1,100	—	1,220
	営業・販売・事務分野	3,490	—	1,970	—	1,520
	医療事務分野	930	—	450	—	480
	介護・医療・福祉分野	2,451	—	1,191	—	1,260
	農業分野	0	—	—	—	—
	旅行・観光分野	0	—	—	—	—
	デザイン分野	2,330	—	680	—	※ 1,650
	製造分野	829	335	—	494	—
	建設関連分野	205	115	90	—	—
	理容・美容関連分野	400	—	—	—	400
	その他分野	1,830	170	190	100	1,370
求職者支援訓練（基礎コース）		1,618	—	—	—	1,618
合計		16,433	650	5,671	594	9,518
（参考） デジタル分野		4,362	30	1,780	332	2,220

※クリエト分野含む

※ 「定員」とは、当該年度中における開講コースの定員の数。

ハロートレーニング（離職者向け）の令和5年度実績（R5.7月末現在）

1 離職者向けの公的職業訓練の分野別訓練規模

分野		総計		
		コース数	定員	受講者数
公共職業訓練（離職者向け） + 求職者支援訓練（実践コース）	IT分野	29	597	439
	営業・販売・事務分野	49	1,110	870
	医療事務分野	11	212	158
	介護・医療・福祉分野	37	716	496
	農業分野	0	0	0
	旅行・観光分野	0	0	0
	デザイン分野	48	966	804
	製造分野	30	398	280
	建設関連分野	9	160	122
	理容・美容関連分野	14	266	242
	その他分野	8	170	123
（基礎者支援訓練）	基礎	15	255	146
合計		250	4,850	3,680 (1,830)
（参考） デジタル分野		74	1,409	1,134

用語の定義

※本資料における用語は、以下のとおり定義しています。

「コース数」

公共職業訓練については、当該年度中に開講したコース及び当該年度以前から開始し当該年度に実施した訓練コースの数（当該年度以前に開講し、次年度に繰り越すコースを含む）。

求職者支援訓練については当該年度中に開講したコースの数。

「定員」

当該年度中に開講した訓練コースの定員の数。

「受講者数」

当該年度中に開講したコースに入校した者の数。

「応募倍率」

当該訓練の定員に対する受講を申し込んだ者の数の倍率。

「定員充足率」

当該訓練の定員に対する受講者数の割合。

「就職率」

訓練を修了等した者のうち就職した者の割合。分母については受講者数から中途退校者数（中途退校就職者数を除く）等を差し引き、分子については中途退校就職者を加えている。

ただし、当該年の7月末までに終了したコースについて集計。

「デジタル分野」

IT分野（ITエンジニア養成科など。情報ビジネス科を除く。）、デザイン分野（WEBデザイン系のコースに限る）等。

2 離職者向けの公的職業訓練の制度別、分野別訓練の実施状況

分野		公共職業訓練(都道府県:委託訓練)						求職者支援訓練					
		コース数	定員	受講者数	応募倍率	定員充足率	就職率	コース数	定員	受講者数	応募倍率	定員充足率	就職率
公共職業訓練 + 求職者支援訓練 (離職者向け) (実践コース)	IT分野	6	130	90	90.8%	69.2%	-	22	437	326	93.1%	74.6%	90.9%
	営業・販売・事務分野	17	450	377	123.3%	83.8%	-	32	660	493	141.5%	74.7%	93.3%
	医療事務分野	3	90	54	80.0%	60.0%	-	8	122	104	125.4%	85.2%	-
	介護・医療・福祉分野	20	366	259	84.7%	70.8%	-	17	350	237	90.0%	67.7%	85.7%
	農業分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
	旅行・観光分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
	デザイン分野	7	160	115	96.3%	71.9%	-	41	806	689	151.5%	85.5%	66.7%
	製造分野	1	10	7	70.0%	70.0%	-	0	0	0	-	-	-
	建設関連分野	0	0	0	-	-	-	5	65	56	196.9%	86.2%	61.5%
	理容・美容関連分野	0			-	-	-	14	266	242	165.8%	91.0%	100.0%
	その他分野	1	30	13	46.7%	43.3%	-	1	12	3	58.3%	25.0%	-
(求職者支援訓練) 基礎コース)	基礎	-	-	-	-	-	-	15	255	146	71.0%	57.3%	100.0%
合計 (うち女性)		55	1,236	915 (72)	99.5%	74.0%	-	155	2,973	2,296 (1,718)	127.4%	77.2%	84.9%
(参考) デジタル分野		11	260	195	98.8%	75.0%	-	49	1,023	839	125.8%	82.0%	76.0%

※就職状況確定: 155コース中20コース

分野	公共職業訓練(都道府県:施設内訓練)						公共職業訓練(高齢・障害・求職者雇用支援機構)					
	コース数	定員	受講者数	応募倍率	定員充足率	就職率	コース数	定員	受講者数	応募倍率	定員充足率	就職率
IT分野	1	30	23	93.3%	76.7%	-	0	0	0	-	-	-
営業・販売・事務分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
医療事務分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
介護・医療・福祉分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
農業分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
旅行・観光分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
デザイン分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
製造分野	9	240	151	78.3%	62.9%	-	20	148	122	114.2%	82.4%	95.0%
建設関連分野	4	95	66	107.4%	69.5%	-	0	0	0	-	-	-
理容・美容関連分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
その他分野	4	95	78	132.6%	82.1%	-	2	33	29	118.2%	87.9%	-
合計	18	460	318	96.5%	69.1%	-	22	181	151 (40)	114.9%	83.4%	95.0%
(参考) デジタル分野	1	30	23	93.3%	76.7%	-	13	96	77	109.4%	80.2%	-

ハロートレーニング（離職者向け）の令和4年度実績

1 離職者向けの公的職業訓練の分野別訓練規模

分野		総計		
		コース数	定員	受講者数
公共職業訓練（離職者向け） + 求職者支援訓練（実践コース）	IT分野	77	1,616	1,126
	営業・販売・事務分野	158	3,730	2,686
	医療事務分野	24	604	427
	介護・医療・福祉分野	100	2,221	1,376
	農業分野	0	0	0
	旅行・観光分野	0	0	0
	デザイン分野	111	2,232	1,862
	製造分野	52	872	669
	建設関連分野	20	387	285
	理容・美容関連分野	39	754	665
	その他分野	23	586	457
（基礎者支援訓練）	基礎	65	1,087	570
合計 （うち女性）		669	14,089	10,123 (6,895)
（参考） デジタル分野		174	3,735	2,959

用語の定義

※本資料における用語は、以下のとおり定義しています。

「コース数」

公共職業訓練については、当該年度中に開講したコース及び当該年度以前から開始し当該年度に実施した訓練コースの数（当該年度以前に開講し、次年度に繰り越すコースを含む）。

求職者支援訓練については当該年度中に開講したコースの数。

「定員」

当該年度中に開講した訓練コースの定員の数。

「受講者数」

当該年度中に開講したコースに入校した者の数。

「応募倍率」

当該訓練の定員に対する受講を申し込んだ者の数の倍率。

「定員充足率」

当該訓練の定員に対する受講者数の割合。

「就職率」

訓練を修了等した者のうち就職した者の割合。分母については受講者数から中途退校者数（中途退校就職者数を除く）等を差し引き、分子については中途退校就職者を加えている。

ただし、当該年の3月末までに終了したコースについて集計。

「デジタル分野」

IT分野（ITエンジニア養成科など。情報ビジネス科を除く。）、デザイン分野（WEBデザイン系のコースに限る）等。

2 離職者向けの公的職業訓練の制度別、分野別訓練の実施状況

分野		公共職業訓練(都道府県:委託訓練)						求職者支援訓練					
		コース数	定員	受講者数	応募倍率	定員充足率	就職率	コース数	定員	受講者数	応募倍率	定員充足率	就職率
公共職業訓練 + 求職者支援訓練(離職者向け) (実践コース)	IT分野	22	580	367	83.6%	63.3%	76.0%	54	1,006	732	99.1%	72.8%	65.5%
	営業・販売・事務分野	79	2,240	1,462	92.5%	65.3%	77.0%	79	1,490	1,224	120.9%	82.1%	64.2%
	医療事務分野	14	420	284	87.1%	67.6%	79.7%	10	184	143	116.3%	77.7%	65.6%
	介護・医療・福祉分野	48	1,159	656	74.5%	56.6%	71.5%	52	1,062	720	87.8%	67.8%	75.3%
	農業分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
	旅行・観光分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
	デザイン分野	23	550	470	163.6%	85.5%	72.6%	88	1,682	1,392	146.8%	82.8%	64.3%
	製造分野	0	0	0	-	-	-	2	28	24	100.0%	85.7%	59.1%
	建設関連分野	3	90	48	66.7%	53.3%	78.2%	13	182	145	129.1%	79.7%	61.0%
	理容・美容関連分野	0	0	0	-	-	-	39	754	665	126.1%	88.2%	86.2%
	その他分野	4	120	86	163.3%	71.7%	64.6%	9	171	130	132.7%	76.0%	78.0%
(基礎者支援訓練)	基礎	-	-	-	-	-	-	65	1,087	570	58.7%	52.4%	53.8%
合計 (うち女性)		193	5,159	3,373 (2,572)	95.8%	65.4%	75.2%	411	7,646	5,745 (4,173)	111.1%	75.1%	67.7%
(参考) デジタル分野		44	1,120	827	121.8%	73.8%	73.2%	111	2,253	1,801	129.4%	79.9%	65.3%

分野	公共職業訓練(都道府県:施設内訓練)						公共職業訓練(高齢・障害・求職者雇用支援機構)					
	コース数	定員	受講者数	応募倍率	定員充足率	就職率	コース数	定員	受講者数	応募倍率	定員充足率	就職率
IT分野	1	30	27	116.7%	90.0%	80.0%	0	0	0	-	-	-
営業・販売・事務分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
医療事務分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
介護・医療・福祉分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
農業分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
旅行・観光分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
デザイン分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
製造分野	12	350	221	75.7%	63.1%	95.1%	38	494	424	128.1%	85.8%	86.0%
建設関連分野	4	115	92	147.0%	80.0%	93.3%	0	0	0	-	-	-
理容・美容関連分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
その他分野	3	165	121	127.3%	73.3%	93.2%	7	130	120	123.8%	92.3%	61.1%
合計 (うち女性)	20	660	461	102.9%	69.8%	93.4%	45	624	544 (150)	127.2%	87.2%	84.9%
(参考) デジタル分野	1	30	27	116.7%	90.0%	80.0%	18	332	304	139.8%	91.6%	86.5%

【資料 1 - (2)】

公的職業訓練の制度別実施状況について

大阪の求職者支援訓練の実施状況（制度開始以降）

- ・令和4年度の受講者数は、5,745人（基礎9.9%、実践90.1%）で、前年同期比30.2%増であった。
- ・令和4年度の訓練修了者等の就職率（訓練終了3か月後時点）は、現在251コースが確定し、基礎コース52.8%、実践コース71.9%となっているが、すべてのコースの就職率が確定するのは、令和6年3月末であることから、引き続き就職支援に取り組んでいるところである。
- ・令和5年度7月末までの受講者数は2,174人（基礎6.0%、実践94.0%）で、前年同期比21.9%増となっている。

	認定上限定員	認定定員	開講定員	受講者数（女性割合）		開講コース率	定員充足率※1	就職率※2,3,4
				うち基礎コース	うち実践コース			
平成23年度 （下半期）	16,300	15,585 (6271-人)	13,110 (5201-人)	8,068 (64.5%)		82.9%	51.8%	基礎 77.1% 実践 75.4%
				1,786 (62.0%)	6,282 (64.3%)			
平成24年度	27,000	26,639 (4881-人)	22,834 (9241-人)	14,394 (65.3%)		85.0%	54.0%	基礎 88.6% 実践 81.9%
				3,467 (66.9%)	10,927 (64.8%)			
平成25年度	22,400	21,682 (8981-人)	19,085 (7831-人)	11,661 (68.7%)		87.2%	53.8%	基礎 89.2% 実践 88.2%
				3,140 (69.4%)	8,521 (68.5%)			
平成26年度	14,700	15,260 (6611-人)	14,072 (6041-人)	8,683 (71.6%)		91.4%	56.9%	基礎 55.8% 実践 58.4%
				2,273 (73.9%)	6,410 (70.8%)			
平成27年度	11,020	11,356 (5401-人)	10,560 (5021-人)	6,616 (74.1%)		92.9%	58.3%	基礎 56.5% 実践 63.0%
				1,541 (74.5%)	5,075 (73.9%)			
平成28年度	12,860	12,420 (5991-人)	10,269 (4911-人)	5,538 (73.2%)		82.0%	44.6%	基礎 62.1% 実践 67.0%
				1,336 (73.4%)	4,202 (71.3%)			
平成29年度	10,180	9,637 (4881-人)	8,218 (4121-人)	4,437 (71.0%)		84.4%	46.0%	基礎 58.6% 実践 69.6%
				998 (78.2%)	3,439 (69.0%)			
平成30年度	9,720	8,662 (4451-人)	7,172 (3701-人)	3,790 (70.5%)		83.1%	43.8%	基礎 52.4% 実践 67.6%
				821 (78.8%)	2,969 (68.2%)			
令和元年度	6,970	7,295 (3901-人)	6,046 (3251-人)	3,437 (70.1%)		83.3%	47.1%	基礎 54.0% 実践 66.8%
				673 (79.6%)	2,764 (67.7%)			
令和2年度	8,090	7,045 (3961-人)	6,297 (3521-人)	4,296 (71.5%)		88.9%	61.0%	基礎 49.5% 実践 65.2%
				810 (77.5%)	3,486 (70.1%)			
令和3年度	11,414	7,506 (4061-人)	6,769 (3651-人)	4,413 (69.3%)		89.9%	58.8%	基礎 51.4% 実践 65.4%
				621 (72.6%)	3,792 (68.8%)			
令和4年度	9,548	8,253 (4461-人)	7,646 (4111-人)	5,745 (72.6%)		92.2%	69.6%	基礎 52.0% 実践 71.9%
				570 (75.1%)	5,175 (72.4%)			
令和5年度 (R5.7月末現在)	9,518	3,166 (1641-人)	2,973 (1551-人)	2,296 (74.8%)		94.5%	72.5%	基礎 - 実践 -
				146 (82.2%)	2,150 (74.3%)			

※1 認定定員に対する受講者充足率

※2 平成23年～25年度の就職率：訓練修了3か月後までの就職状況

※3 平成28年度以降は、訓練終了日に65歳以上の者を除く

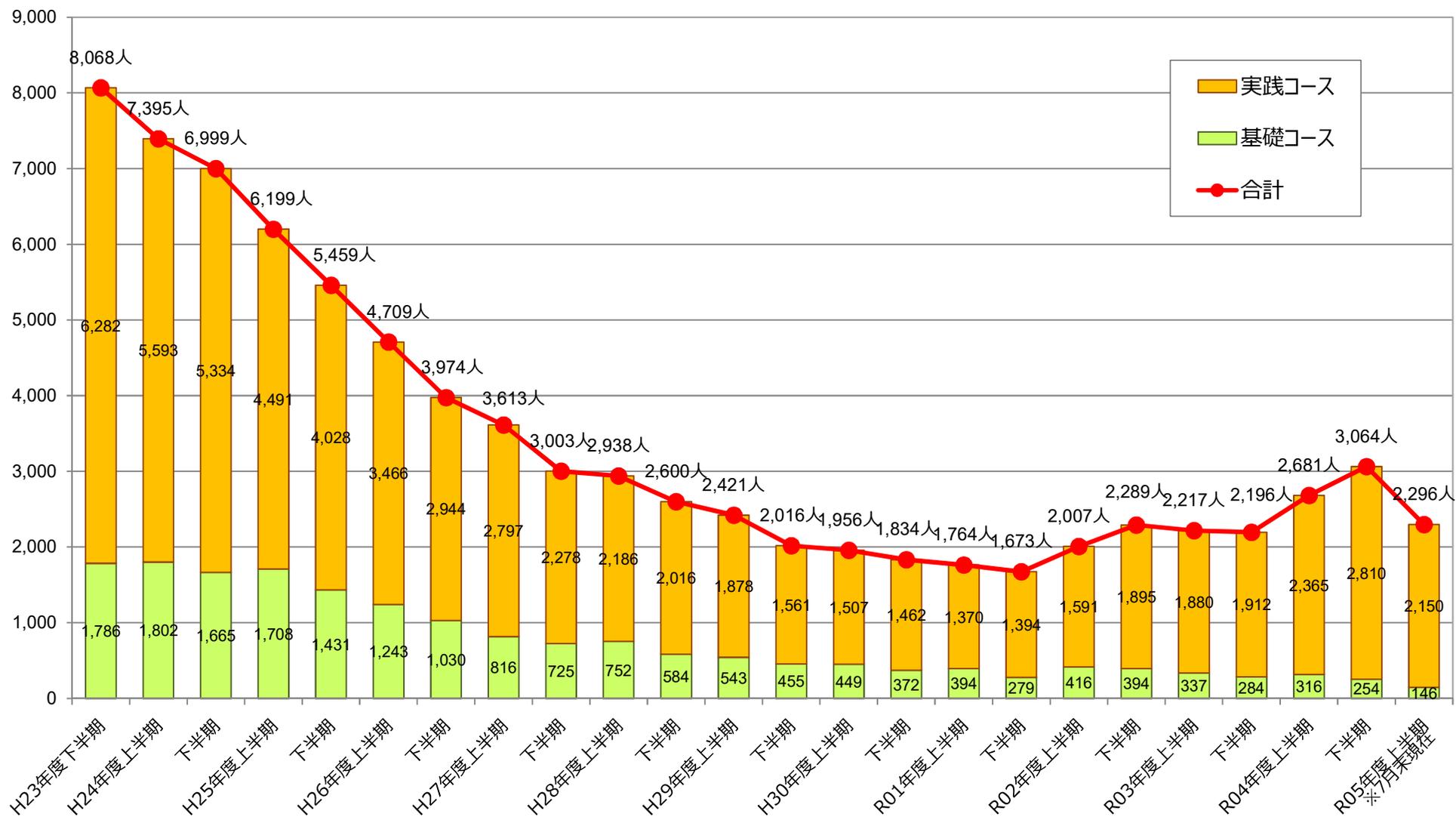
※4 特例措置により、令和2年1月1日～5月30日に終了したコースについては、訓練終了後6か月を経過する日までの就職状況により就職率を確定する

※5 事業目標（平成23年～25年度）基礎コース60%、実践コース70%（平成26年度～令和元年度（雇用保険適用就職率））基礎コース55%、実践コース60%

（令和2年度以降（雇用保険適用就職率））基礎コース58%、実践コース63%

求職者支援訓練（大阪）受講者実績（半期毎）

受講者数は減少が続いていたが、令和2年度から増加傾向。
 令和2年度は前年度比25.0%増、令和3年度は、前年度比2.7%増であった。
 令和4年度については、上期前年度比20.9%増、1月末現在の前年同期比は、27.7%増（基礎コース▲8.2%、実践コース+33.

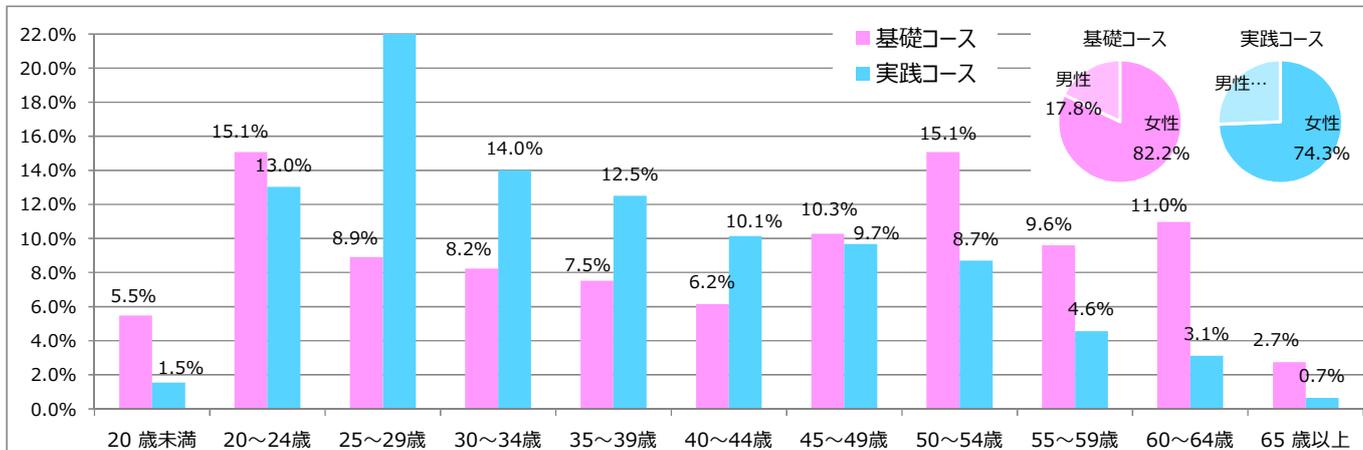


*7月末現在

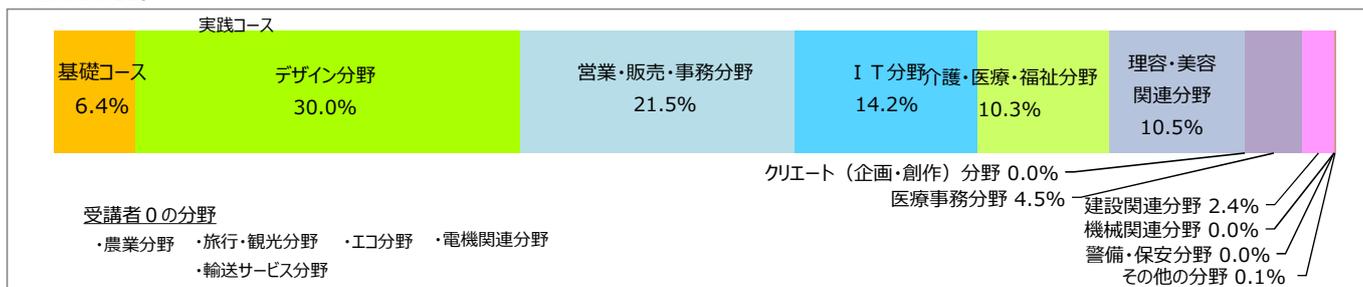
令和5年度求職者支援訓練(大阪)の受講者割合

- ・基礎コースは幅広い年齢層で受講者がおり、実践コースは20歳代の受講者割合が他の年齢層と比べて高い。
- ・男女比率では、基礎コースの7割以上、実践コースの7割弱が女性となっているが、分野別ではIT分野で31.5%、保安分野で0%の女性比率となっている。
- ・実践コースを分野別にみると、事務系分野では幅広い年齢層で受講しているが、デザイン、クリエイト、IT、美容関連分野では、20歳代の若年層が約半数を占め、介護・医療・福祉分野では40歳代以上の中高年層が7割を占める。

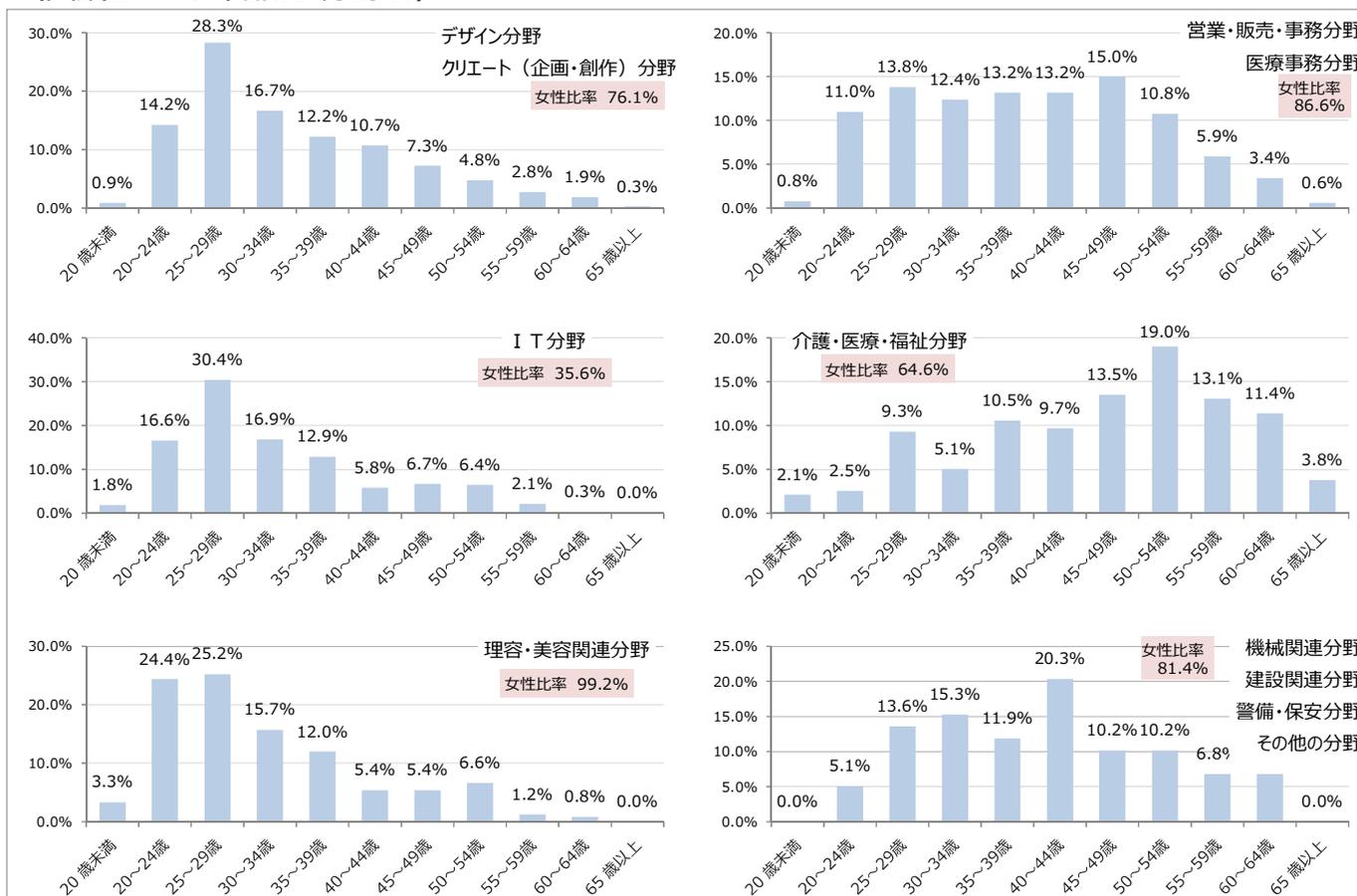
(年齢別・コース別)



(分野別)



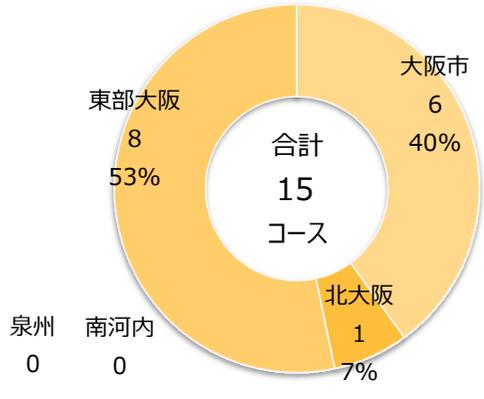
(実践コース：年齢別・分野別)



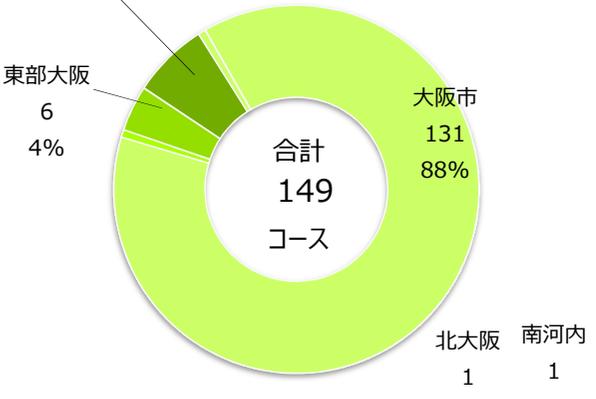
令和5年度 大阪府内で実施した 求職者支援訓練

(令和5年4月～7月開講)

基礎コース



実践コース



(コース数)

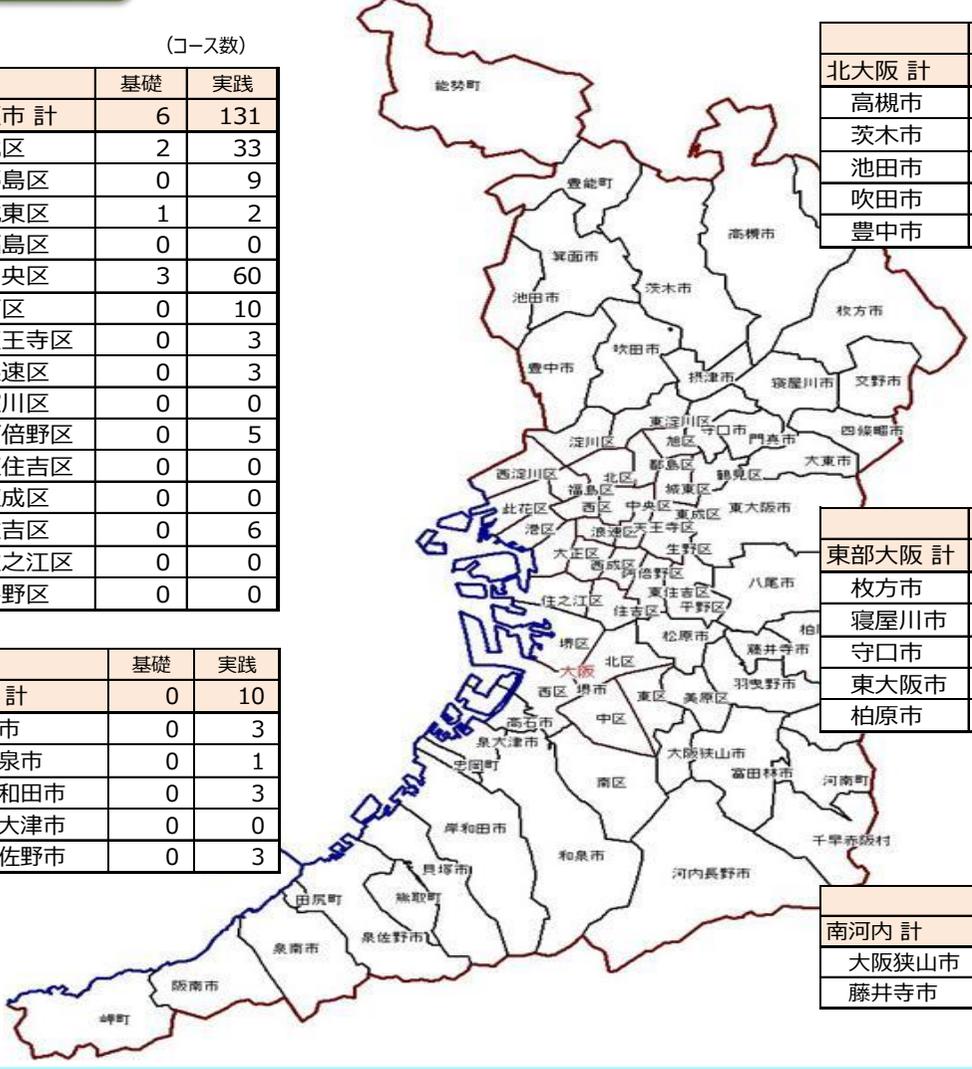
	基礎	実践
大阪市計	6	131
北区	2	33
都島区	0	9
城東区	1	2
福島区	0	0
中央区	3	60
西区	0	10
天王寺区	0	3
浪速区	0	3
淀川区	0	0
阿倍野区	0	5
東住吉区	0	0
東成区	0	0
住吉区	0	6
住之江区	0	0
平野区	0	0

	基礎	実践
泉州計	0	10
堺市	0	3
和泉市	0	1
岸和田市	0	3
泉大津市	0	0
泉佐野市	0	3

	基礎	実践
北大阪計	1	1
高槻市	0	0
茨木市	1	0
池田市	0	0
吹田市	0	1
豊中市	0	0

	基礎	実践
東部大阪計	8	6
枚方市	3	2
寝屋川市	3	1
守口市	0	2
東大阪市	0	1
柏原市	2	0

	基礎	実践
南河内計	0	1
大阪狭山市	0	1
藤井寺市	0	0



大阪府立高等職業技術専門校 令和5年度 入校状況（R5年8月末時点）

■北大阪校

科目名	入校月	期間・課程		定員	応募者数	入校者数	分野
3Dモデルクラフト科	4月	1年	普通	20	16	12	製造
ICTプログラミング科	4月	1年	普通	30	21	19	製造
建築設計科	4月	1年	普通	25	31	25	建設
インテリア木工科	4月	1年	普通	25	18	11	建設
建築設備科	4月	1年	普通	25	15	10	建設
ロボテックオートメーション科	10月	1年	普通	25	—	—	製造

■東大阪校

科目名	入校月	期間・課程		定員	応募者数	入校者数	分野
機械加工・営業科	4月	6月	短期	20	4	1	製造
	10月	6月	短期	—	—	—	
ものづくり金属科	4月	1年	短期	25	22	19	製造
電気工事科	4月	1年	普通	25	19	17	製造
機械CADデザイン科	4月	6月	短期	30	22	19	製造
	10月	6月	短期	—	—	—	
ビル管理科	4月	6月	短期	25	24	19	その他
	10月	6月	短期	—	—	—	

■南大阪校

科目名	入校月	期間・課程		定員	応募者数	入校者数	分野
自動車・車体整備科	4月	2年	普通	30	19	13	製造
電気主任技術科	4月	2年	普通	30	39	26	製造
情報通信科	4月	1年	普通	30	26	25	製造
Webシステム開発科	4月	1年	普通	30	28	23	IT
化学ビジネス科	4月	1年	普通	20	20	19	その他
空調設備科	10月	1年	普通	—	—	—	製造

■夕陽丘校

科目名	入校月	期間・課程		定員	応募者数	入校者数	分野
建築内装CAD科	4月	6月	短期	20	38	20	建設
	10月	6月	短期	—	—	—	
ビル設備管理科	4月	6月	短期	25	63	25	その他
	10月	6月	短期	—	—	—	
ビルクリーニング管理科	4月	6月	短期	25	19	15	その他
	10月	6月	短期	—	—	—	

大阪府立高等職業技術専門校 令和4年度 入校状況 (R5年8月末時点)

■北大阪校

科目名	入校月	期間・課程		定員	応募者数	入校者数	就職率	分野
3Dモデルクラフト科	4月	1年	普通	20	19	19	87.5%	製造
ICTプログラミング科	4月	1年	普通	30	31	27	87.5%	製造
建築設計科	4月	1年	普通	25	34	25	96.0%	建設
住宅設備科	4月	1年	普通	25	13	9	77.8%	建設
インテリア木工科	4月	1年	普通	25	24	18	94.4%	建設
ロボテックオートメーション科	10月	1年	普通	25	15	15	100%※	製造

※R3.10入校生の就職率

■東大阪校

科目名	入校月	期間・課程		定員	応募者数	入校者数	就職率	分野
溶接・板金技術科	4月	1年	普通	20	6	6	100.0%	製造
機械加工・営業科	4月	6月	短期	20	8	7	100.0%	製造
	10月	6月	短期	20	3	3	100.0%	
ものづくり基礎科	4月	1年	短期	20	2	2	100.0%	製造
電気工事科	4月	1年	普通	25	24	22	95.0%	製造
機械CADデザイン科	4月	6月	短期	30	31	26	96.2%	製造
	10月	6月	短期	30	14	12	91.70%	

■南大阪校

科目名	入校月	期間・課程		定員	応募者数	入校者数	就職率	分野
自動車・車体整備科	4月	2年	普通	30	25	21	100%※	製造
電気主任技術科	4月	2年	普通	30	47	30	95.8%※	製造
情報通信科	4月	1年	普通	30	27	21	100.0%	製造
Webシステム開発科	4月	1年	普通	30	35	27	80.0%	IT
化学ビジネス科	4月	1年	普通	25	24	21	90.5%	その他
空調設備科	10月	1年	普通	20	13	10	—	製造

※R3入校生の就職率

■夕陽丘校

科目名	入校月	期間・課程		定員	応募者数	入校者数	就職率	分野
建築内装CAD科	4月	6月	短期	20	50	20	94.7%	建設
	10月	6月	短期	20	48	20	94.7%	
ビル設備管理科	4月	6月	短期	40	89	40	94.9%	その他
	10月	6月	短期	40	66	40	92.5%	
ビルクリーニング管理科	4月	6月	短期	30	19	13	100.0%	その他
	10月	6月	短期	30	12	7	80.0%	

大阪府立高等職業技術専門校等 令和5年度 在職者訓練（テクノ講座）実施状況

令和5年8月末現在

1 レディメイド講座

校名	年間計画		実施済					
	コース	定員	コース	定員	申込者数	受講者数	修了者数	受講率
北大阪校	12	84	2	14	17	12	11	85.7%
東大阪校	22	230	9	105	104	83	72	79.0%
南大阪校	22	252	5	57	82	53	47	93.0%
夕陽丘校	32	391	11	151	144	103	82	68.2%
障害者校	14	90	6	40	34	25	24	62.5%
小計	102	1,047	33	367	381	276	236	75.2%

2 オーダーメイド講座

校名	年間計画		実施済					
	コース	定員	コース	定員	申込者数	受講者数	修了者数	受講率
北大阪校	21	269	9	125	90	90	76	72.0%
東大阪校	13	170	3	46	41	41	39	89.1%
南大阪校	6	110	0					
夕陽丘校	2	20	0					
障害者校	1	7	0					
小計	43	576	12	171	131	131	115	76.6%

3 テクノ講座合計（レディメイド講座+オーダーメイド講座）

校名	年間計画		実施済					
	コース	定員	コース	定員	申込者数	受講者数	修了者数	受講率
北大阪校	33	353	11	139	107	102	87	73.4%
東大阪校	35	400	12	151	145	124	111	82.1%
南大阪校	28	362	5	57	82	53	47	93.0%
夕陽丘校	34	411	11	151	144	103	82	68.2%
障害者校	15	97	6	40	34	25	24	62.5%
合計	145	1,623	45	538	512	407	351	75.7%

※ テクノ講座の内、DX分野（情報系講座）

校名	年間計画		実施済					
	コース	定員	コース	定員	申込者数	受講者数	修了者数	受講率
北大阪校	2	14	1	7	12	7	6	100.0%
東大阪校	1	10	1	10	10	8	6	80.0%
南大阪校	11	112	2	22	38	22	18	100.0%
夕陽丘校	1	10	0					
障害者校	1	5	0					
計	16	151	4	39	60	37	30	94.9%

大阪府立高等職業技術専門校等 令和4年度 在職者訓練（テクノ講座）実施状況

令和5年3月末現在

1 レディメイド講座

校名	年間計画		実施済					
	コース	定員	コース	定員	申込者数	受講者数	修了者数	受講率
北大阪校	12	87	6	45	31	25	20	55.6%
東大阪校	22	230	16	195	191	139	122	71.3%
南大阪校	23	260	21	240	244	158	144	65.8%
夕陽丘校	32	381	26	321	283	213	162	66.4%
障害者校	14	90	14	90	67	63	58	70.0%
小計	103	1,048	83	891	816	598	506	67.1%

2 オーダーメイド講座

校名	年間計画		実施済					
	コース	定員	コース	定員	申込者数	受講者数	修了者数	受講率
北大阪校	16	235	16	235	176	174	139	74.0%
東大阪校	13	170	12	161	153	154	137	95.7%
南大阪校	3	75	1	26	26	26	24	100.0%
夕陽丘校	5	50	0					
障害者校	1	7	0					
小計	38	537	29	422	355	354	300	83.9%

3 テクノ講座合計（レディメイド講座+オーダーメイド講座）

校名	年間計画		実施済					
	コース	定員	コース	定員	申込者数	受講者数	修了者数	受講率
北大阪校	28	322	22	280	207	199	159	71.1%
東大阪校	35	400	28	356	344	293	259	82.3%
南大阪校	26	335	22	266	270	184	168	69.2%
夕陽丘校	37	431	26	321	283	213	162	66.4%
障害者校	15	97	14	90	67	63	58	70.0%
合計	141	1,585	112	1,313	1,171	952	806	72.5%

※ テクノ講座の内、DX分野（情報系講座）

校名	年間計画		実施済					
	コース	定員	コース	定員	申込者数	受講者数	修了者数	受講率
北大阪校	1	10	1	10	9	5	5	50.0%
東大阪校	0		0					
南大阪校	12	120	11	110	139	80	73	72.7%
夕陽丘校	0		0					
障害者校	1	5	1	5	5	5	5	100.0%
計	14	135	13	125	153	90	83	72.0%

令和5年度 在職者訓練実施状況

令和5年7月末現在

[関西職業能力開発促進センター]

区 分	実施					充足率 (受講者/定員)
	コース数	定員	訓練時間	申込者数	受講者数	
機械系	95	1,250	1,619	1,306	1,126	90.1%
オーダー型コース 実施状況(内数)	24	382	448	383	382	100.0%
電気・電子系	87	891	1,292	895	792	88.9%
オーダー型コース 実施状況(内数)	24	241	329	241	241	100.0%
合計	182	2,141	2,911	2,201	1,918	89.6%
オーダー型コース 実施状況内数合計	48	623	777	624	623	100.0%

[近畿職業能力開発大学校]

区 分	実施					充足率 (受講者/定員)
	コース数	定員	訓練時間	申込者数	受講者数	
機械系	29	346	412	245	241	69.7%
オーダー型コース 実施状況(内数)	12	136	166	136	136	100.0%
電気・電子系	17	189	228	176	176	93.1%
オーダー型コース 実施状況(内数)	15	169	204	163	163	96.4%
居住系	6	95	72	89	88	92.6%
オーダー型コース 実施状況(内数)	5	85	60	85	85	100.0%
合計	52	630	712	510	505	80.2%
オーダー型コース 実施状況内数合計	32	390	430	384	384	98.5%

令和4年度 在職者訓練実施状況

令和5年3月末現在

[関西職業能力開発促進センター]

区 分	実施					充足率 (受講者/定員)
	コース数	定員	訓練時間	申込者数	受講者数	
機械系	233	2,918	3,829	2,896	2,307	79.1%
オーダー型コース 実施状況(内数)	41	596	690	522	520	87.2%
電気・電子系	260	2,708	3,878	2,625	2,127	78.5%
オーダー型コース 実施状況(内数)	59	619	806	546	541	87.4%
合計	493	5,626	7,707	5,521	4,434	78.8%
オーダー型コース 実施状況内数合計	100	1,215	1,496	1,068	1,061	87.3%

[近畿職業能力開発大学校]

区 分	実施					充足率 (受講者/定員)
	コース数	定員	訓練時間	申込者数	受講者数	
機械系	73	890	1,034	670	628	70.6%
オーダー型コース 実施状況(内数)	35	429	486	438	426	99.3%
電気・電子系	55	614	736	510	485	79.0%
オーダー型コース 実施状況(内数)	39	466	518	456	440	94.4%
居住系	11	130	135	84	81	62.3%
オーダー型コース 実施状況(内数)	3	50	36	50	50	100.0%
合計	139	1,634	1,905	1,264	1,194	73.1%
オーダー型コース 実施状況内数合計	77	945	1,040	944	916	96.9%

令和5年度 専門・応用課程実施状況

令和5年7月末現在

[近畿職業能力開発大学校]

○専門課程(令和5年4月入校生)

訓練科名	期間	定員	応募者数	入校者数	
生産技術科	2年	30	21	19(1)	
電気エネルギー制御科	2年	30	28	30(1)	
電子情報技術科	2年	30	36	26(2)	
住居環境科	2年	20	39	20(5)	
計		110	124	95(9)	女性数 ()

○応用課程(令和5年4月入校生)

訓練科名	期間	定員	応募者数	入校者数	
生産機械システム技術科	2年	30	25	21(1)	
生産電気システム技術科	2年	20	22	19(1)	
生産電子情報システム技術科	2年	30	31	30(0)	
建築施工システム技術科	2年	25	27	25(5)	
計		105	105	95(7)	女性数 ()

○専門課程活用型デュアルシステム

訓練科名	期間	定員	応募者数	入校者数	
メカトロニクス技術科	2年	10	1	1(0)	女性数 ()

※令和5年7月入校生

令和5年度 港湾労働者訓練実施状況

[関西職業能力開発促進センター大阪港湾労働分所]

訓練科名	期間	定員	入所者数	就職率	備考
港湾荷役科	1年	30	14(0)		

女性数()

令和4年度 専門・応用課程実施状況

令和5年3月末現在

[近畿職業能力開発大学校]

○専門課程(令和4年4月入校生)

訓練科名	期間	定員	応募者数	入校者数	女性数 ()
生産技術科	2年	30	22	30(2)	
電気エネルギー制御科	2年	30	30	29(2)	
電子情報技術科	2年	30	61	30(1)	
住居環境科	2年	20	49	21(2)	
計		110	162	110(7)	

○応用課程(令和4年4月入校生)

訓練科名	期間	定員	応募者数	入校者数	女性数 ()
生産機械システム技術科	2年	30	26	24(2)	
生産電気システム技術科	2年	20	22	22(2)	
生産電子情報システム技術科	2年	25	33	28(2)	
建築施工システム技術科	2年	25	35	27(7)	
計		100	116	101(13)	

○専門課程活用型デュアルシステム

訓練科名	期間	定員	応募者数	入校者数	女性数 ()
メカトロニクス技術科	2年	10	1	1(0)	

※令和4年7月入校生

令和4年度 港湾労働者訓練実施状況

[関西職業能力開発促進センター大阪港湾労働分所]

訓練科名	期間	定員	入所者数	就職率	備考
港湾荷役科	1年	30	23(0)	100.0%	

女性数()

【資料 2】

令和 6 年度
大阪府地域職業訓練実施計画策定方針
(案)

令和6年度大阪府地域職業訓練実施計画(離職者対象)の方針案

I 大阪の産業の成長を支える人材育成

(1)ものづくり分野の人材育成

- ①府立高等職業技術専門校
- ②関西職業能力開発促進センター(ポリテクセンター関西)

また、近畿職業能力開発大学校、大阪港湾労働分所にて学卒者訓練を実施。

(2)デジタル人材の育成(デジタル田園都市国家構想基本方針)

令和6年度デジタル分野計画数(大阪府離職者等再就職訓練2,046人【目安値】、求職者支援訓練(2,220人【予】)

「女性」「若年者」「障がい者」「中高年齢者」「非正規雇用者」等の人材育成に資する訓練を継続して実施。
・短期短時間コース、託児サービス付き訓練コース、オンラインを活用した訓練コースの設定 等

II 早期再就職を支援するための職業訓練

(参考)

- ・令和5年度大阪府離職者等再就職訓練計画定員数5,671人
- ・令和5年度求職者支援訓練上限認定規模9,518人

(1)地域のニーズに応じた訓練

人材不足感が高い
求人・求職規模が大きい
就職実績が高い

介護福祉分野

- 介護福祉人材育成コースの設定
- ・介護福祉士実務者研修
- ・介護職員初任者養成

求人・求職規模が大きい
就職実績が高い

IT分野
事務・販売・営業分野

- デジタル分野のコース設定
- ・データサイエンス基礎実践科
- ・クラウドエンジニア基礎実践科
- ・ICTエンジニア科、ICTプログラミング科
- ・Javaプログラマー養成科
- パソコン・事務系コースの設定

※大阪・関西万博を見据えた人材育成

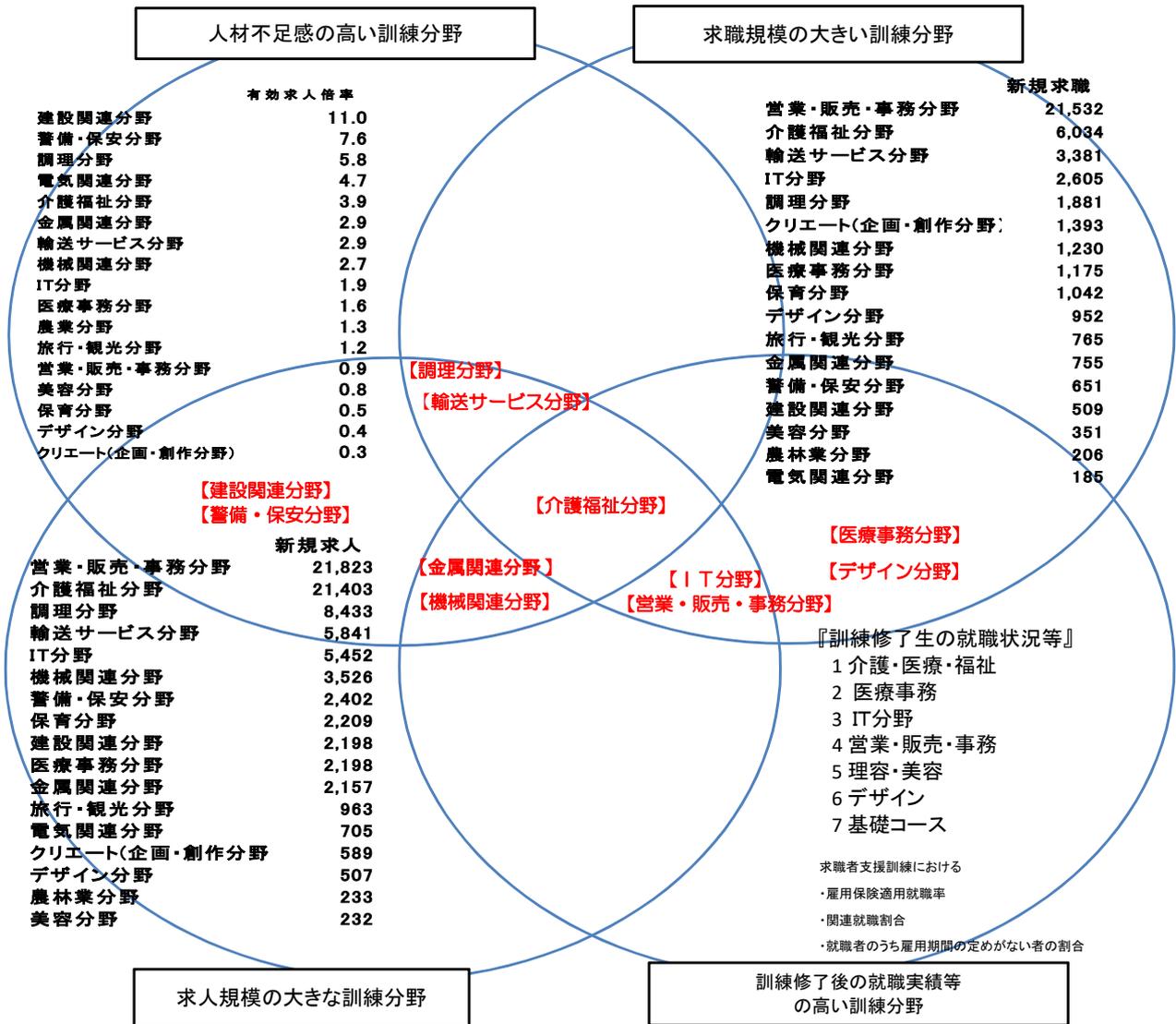
(2)職業訓練実施状況に応じた訓練

応募倍率が高い
就職率が比較的低い

IT分野
デザイン分野

- Web系を含めたコース設定
- ・Webデザイン+プログラミング基礎科
- ・Webデザイナー実践科(企業実習付き)

※訓練協議会に設置したワーキンググループにおいて訓練効果検証の取組みを実施し、カリキュラム等の改善を図っていく。



●重点的に設定を行う分野(各分析項目についての上位を分析)

- ・人材不足感が高く、求人・求職規模が大きく、就職実績の高い分野 介護福祉分野、(金属・機械分野)
- ・求人・求職の規模が大きく、就職実績の高い分野 IT分野、営業・販売・事務分野
- ・人材不足感が高く、求人・求職規模が大きい分野 輸送サービス分野、調理分野
- ・求人・求職規模が大きい分野 営業・販売・事務分野、介護福祉分野
- ・人材不足感が高く、求人規模の大きな訓練分野 建設関連分野、警備・保安分野
- ・人材不足感が高く、求職規模の大きな訓練分野 調理分野、介護福祉分野

令和6年度全国職業訓練実施計画の策定に向けた方針（案）

令和5年度計画と同程度の規模で人材を育成

実施状況の分析

応募倍率が低く、就職率が高い分野
（R4実績に該当する訓練分野）「介護・医療・福祉」

【委託訓練】R4は応募倍率が更に低下し75.7%。就職率はやや向上。

【求職者支援訓練】R4は応募倍率が大幅に改善し71.5%。就職率はやや低下。

応募倍率が高く、就職率が低い分野
（R4実績に該当する訓練分野）
「IT分野」「デザイン分野」

【委託訓練】R4は就職率はIT分野で改善。応募倍率はデザイン分野で156.8%と高倍率。

【求職者支援訓練】R4はいずれも就職率が低下したが特にデザイン分野で大幅低下。応募倍率はいずれも上昇。

A 一部改善もみられるが、この分野の応募倍率は両訓練とも70%台であることから、引き続き、訓練コースの内容や効果を踏まえた受講勧奨の強化が必要。委託訓練についてはEの措置も併せて実施。

B 高応募倍率が続いていることから、IT分野、デザイン分野とも、一層の設定促進（F同旨）が必要。

C 他方で、特にデザイン分野は就職率が低いことから、求人ニーズに即した効果的な訓練内容か検討が必要。

D 就職率向上のため、受講希望者のニーズに沿った適切な訓練を勧奨できるようハローワーク訓練窓口職員の知識の向上や事前説明会・見学会の機会確保を図るとともに、訓練修了者の就職機会の拡大に資するよう訓練修了者歓迎求人等の確保を推進する等の取組推進が必要。

計画と実績の乖離

委託訓練の計画数と実績は乖離。さらに令和4年度は委託訓練受講者が減少。

E 開講時期の柔軟化、受講申込締切日から受講開始日までの期間の短縮、効果的な周知広報等、受講者数増加のための取組が必要。

人材ニーズを踏まえた設定

デジタル人材が質・量とも不足、都市圏偏在が課題。（デジタル田園都市国家構想総合戦略）

F 職業訓練のデジタル分野への重点化を進め、一層の設定促進が必要。

令和6年度 大阪府離職者等再就職訓練事業について

離職者の早期再就職支援を目的に、第1次大阪府職業能力開発計画や国のデジタル田園都市国家構想に基づく訓練機会の提供と、求職者や企業ニーズを踏まえた創意工夫のある訓練を実施

訓練の方向性

1 デジタル人材を育成する訓練の拡充

- ・ IT系科目に加え、デザイン系科目も組み込んだ多様な訓練の設定、実施
「Python+Javaプログラマー養成科」、「Webデザイン+プログラミング基礎科」など
- ・ ITスキル標準（ITSS）レベル1以上資格取得をめざす訓練の実施
「デジタルマーケティング科」、「初めてでも出来る！Webスマホアプリ開発人材育成科」など

2 介護・保育人材の確保に資する訓練の実施

- ・ 人材不足業界である介護・保育人材を養成する訓練の設定、実施
「介護職員初任者養成研修科」、「介護福祉士実務者研修科」、「保育人材養成科」など

3 子育て中の方が受講しやすい訓練の実施

- ・ 「託児サービス」を付加した訓練科目の設定
- ・ ひとり親家庭の父母優先枠の設定

4 国家資格の取得による専門人材を育成する訓練の実施

- ・ 介護福祉士、保育士等を養成する訓練の設定、実施
「介護福祉士養成コース」、「保育士養成コース」など

5 中高年者の職業能力向上に資する訓練の実施

- ・ パソコンの基本操作に加え、実務的な能力を養成する訓練の設定、実施
「パソコンスキル習得科」、「宅地建物取引士養成科」など

実施予定コース数：212コース
実施予定定員：5,351人

（内訳）
知識等習得コース：165コース 4,515人
企業実習付コース：33コース 660人
長期高度人材育成コース：14コース 176人

高等職業技術専門校の訓練科目等（令和6年度の主な変更点）

年齢制限の上限撤廃

校名	科目名称	令和5年度	令和6年度
北大阪校	ICTプログラミング科、ロボテックオートメーション科、建築設計科	18歳以上、44歳以下	18歳以上
南大阪校	自動車・車体整備科		
	情報通信科、Webシステム開発科（→Webプログラミング科）	18歳以上、34歳以下	

科目の再編等

校名	科目名称	内容
東大阪校	機械加工・営業科 ↓ プロダクトサポート科	パソコンのスキルや品質管理、原価計算と併せてNC加工技術の基礎を学ぶ訓練に改め、「短期課程:6か月・20名定員×2」を「短期課程:1年・20名定員」に変更、科目名を『プロダクトサポート科』とする。
南大阪校	空調設備科	「普通課程:1年・20名定員」を「短期課程:6か月・20名定員×2」に変更する。
夕陽丘校	建築内装CAD科	「短期課程:6か月・20名定員×2」を「25名定員×2」に変更する。

※ 上記のほか、一部科目で訓練課程や内容の変更を行うとともに、訓練内容の変更に伴って、北大阪校の「インテリア木工科」を「建築インテリア科」、南大阪校の「Webシステム開発科」を「Webプログラミング科」に科名変更する。

【資料3】

令和5年度
公的職業訓練効果検証
ワーキンググループ報告

公的職業訓練効果検証ワーキンググループ

■ 目的

地域の人材育成を効果的に実施するため、
訓練コースの内容がニーズに即したものとなっているか、
訓練効果等が上がっているか等の検証を行い、
当該検証結果を踏まえた見直しを行う。

個別の訓練コースの

・ 訓練修了者 ・ 採用企業 ・ 訓練実施機関
からのヒアリングを実施

訓練効果を把握・検証

訓練カリキュラム等の改善を図る

令和5年度の公的職業訓練効果検証ワーキンググループ

■ 検証対象分野

デジタル分野

■ 検証対象コース

デジタル分野で訓練修了者が比較的多い訓練コース

■ ヒアリングの対象

訓練修了者 ⇒ デジタル分野に関連する企業へ就職した者

採用企業 ⇒ 企業へのヒアリングについて訓練修了者の同意を得られた企業

訓練実施機関 ⇒ 検証対象コースの訓練実施機関

■ ヒアリング方法

訓練修了者 ⇒ 書面・WEBによるアンケート方式

採用企業 ⇒ 対面、または、書面・WEBによるアンケート方式

訓練実施機関 ⇒ 対面、または、書面・WEBによるアンケート方式

令和5年度の公的職業訓練効果検証ワーキンググループ

■ ヒアリング実施期間

令和5年4月～6月

■ ヒアリング実施コース

求職者支援訓練	1コース	大阪府委託訓練	2コース
ポリテクセンター関西	1コース	大阪府立高等職業技術専門学校	1コース

■ ヒアリング実施数

訓練修了者	25人	(アンケート送付数 50件 回答率 50%)
採用企業	6社	(アンケート送付数 6件 回答率 100%)
訓練実施機関	4校	(ポリテクセンター関西、大阪府立高等職業技術専門学校含む)

※ 企業へのヒアリングについて、上記6社以外に、
訓練修了者を対象としたハローワーク面接会参加企業3社にもヒアリングを実施

採用企業へのヒアリング

企業が訓練修了生に求めるものは、 「仕事への意欲」と「基礎知識・スキル」

主なヒアリング回答

訓練により得られた知識やスキル等のうち、採用後に役に立っているものは何ですか？

- ・何かしらのプログラミングを学んでこられたこと。
- ・ITの知識、考え方を身につけていること。
- ・下地があったため、当社の研修で労せず先の研修ができた。
- ・javasilver取得で知識を習得していた。
- ・職業訓練では社会（IT業界）の実情や厳しさを教えているので、既に心構えができています。

訓練未受講者を採用する場合と比較して、訓練修了者の採用する場合に期待することは何ですか？

- ・組織で働けるヒューマンスキル（人と接することに抵抗がないこと）、仕事に対する意欲、チャレンジ精神
- ・プログラミングの基礎知識の習得、プログラミングが好きかどうか、IT業界で仕事をしていきたいという意欲
- ・仕事への意欲、IT知識
- ・社会人経験とスキル獲得に対する意欲と向上心。
- ・基礎スキルが身につけて意欲がある人
- ・就業意識が高いところ。

訓練において、より一層習得しておくことが望ましい知識やスキル等は何ですか？

- ・javaなどはwebの技術なので、Linuxなどサーバー構築やアクセスの仕方の知識も教えてもらえるよい。
- ・アルゴリズムについて。
- ・officeソフトの利用方法と文書作成
- ・javaのフレームワークを使用した実践

訓練修了者へのヒアリング

訓練修了者が就職後役に立ったと感じているものは、
「基礎知識」

また、就職支援で就業意欲を下げずに就職できたという声もあり。

主なヒアリング回答

訓練内容のうち、就職後に役に立ったものは何ですか？

- ・ソフトの基礎操作や基礎知識は現場では丁寧に教えてもらえないので、最初から学べて役に立った。
- ・就職先によって変わるので、基礎を押さえているカリキュラムで良かったと思った。
- ・実制作でヒアリングからプレゼン、制作まで作成したので、その経験は活かしている。
- ・就職後に基礎知識があったので話についていけた。 ・言語や開発について基礎から学べる充実した内容だった。

訓練校の就職支援で役に立ったものは何ですか？

- ・自分が働く上で大事にしていることを再度確認出来てよかったです。
また、定期的に面談があったので就職意欲を下げることなくそのまま就職できました。
- ・履歴書など慣れない書類作成を手伝っていただいたこと。 ・自己分析を深く考える支援が役に立ちました。
- ・企業に送るメールの添削などしてもらってました。

就職後に感じた、受講した訓練カリキュラムには無かったが、学べたらより良かったと思うものは何ですか？

- ・ PHP、wordpress
- ・ サーバーとwebページの関係性
- ・ JSP、サブレット
- ・ PC自体の基礎（ドライバ、OS、64bit/32bit等）
- ・ より実践的なことが学べたらもっと良かった。
- ・ AWSなど、クラウド系の知識も学べると良かったと思う。
- ・ JAVAのデスクトップアプリ開発の授業、もしくはPython
- ・ コードをより綺麗に見せる方法や考え方
- ・ ネットワーク系
- ・ パッチの文法の実習

訓練実施機関へのヒアリング

訓練実施機関は就職支援で就職意欲向上のサポート

主なヒアリング回答

訓練効果の向上のために取り組まれている「学科及び実技」での工夫は何ですか？

- ・実践形式でスキルを高めるべく、企業と連携して作成したカリキュラムと実務経験の多い講師を配置し、実務内容を学習に置き換え、専門知識を養う。
- ・なるべく実際の職場での事例を交えて指導している。
- ・テキストのサンプルコードを教えるだけでなくオリジナルな練習問題をできるだけ多く提供し、コードを覚えてもらうアウトプットを重視した取り組みを行っている。
- ・地域の実情に沿ったカリキュラムとするため、ニーズ把握に努めている。

訓練効果の向上のために取り組まれている「就職支援」での工夫は何ですか？

- ・訓練生が理想の将来像を考えられるよう、経験豊富なキャリアコンサルタントから就職意識の向上をサポート。
- ・訓練生の様子を常に観察し、積極的にこちらから声掛けを行い、必要があればいつでも相談を受け付けるよう心掛けている。
- ・関連企業に就職するために、当事者にとってどの部分を重点的に学習する必要があるか指導している。
- ・訓練期間の早い段階から、就職を意識できるよう、就職面談を行っている。

キャリアコンサルティングの実施状況

- ・月1回、45分～1時間実施
面接指導、業界・業種の絞り込みにより就職活動を決める。
- ・訓練期間中最低3回、45～90分程度実施
IT業界の求人状況や自身のキャリアプランに関しての相談。IT業界にはどのような働き方があるのか？といった相談。

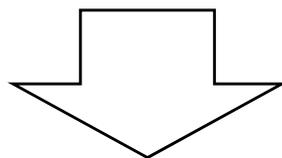
ヒアリング結果を踏まえた効果検証

訓練効果が期待できる内容

- 基礎的知識・技能の習得
採用された企業により必要な応用技術が異なるが、応用技術を自学習できる程度の基礎知識・技能が必要
- ITスキルアップへのモチベーションやチームスキルの向上
- 社会人としての基本的スキルやIT業界知識を学べる機会

訓練効果上げるために改善すべき内容

- 急速に発展するIT技術に対応するため、上記を踏まえたカリキュラムのブラッシュアップを継続していくことが必要



改善促進策

新たに公的職業訓練を実施する訓練実施機関や、就職率が芳しくない訓練実施機関に対し、機会を捉え上記訓練効果が期待できる内容を周知することにより、デジタル分野の訓練コース全体の訓練効果を向上させるよう取り組んでいく。

令和5年度 公的職業訓練効果検証ワーキンググループ ヒアリング結果【訓練修了者】

委託訓練①		委託訓練②		支援訓練		技専校		ポリテク	
ヒアリング数 4		ヒアリング数 7		ヒアリング数 5		ヒアリング数 3		ヒアリング数 6	
次の科目の受講が、就職先の仕事でどれくらい役に立ったと感じているか教えてください。									
1 実制作	117時間	1 Javaプログラミング演習 (基礎・応用)	108時間	1 Java言語演習 (初歩、基本、応用、実用)	338時間	1 Java/PHP	308時間	1 Java言語によるアプリ開発演習 (基礎)	108時間
非常に役に立った	4 100.0%	非常に役に立った	5 71.4%	非常に役に立った	4 80.0%	非常に役に立った	3 100.0%	非常に役に立った	4 66.7%
役に立った	0 0.0%	役に立った	2 28.6%	役に立った	0 0.0%	役に立った	0 0.0%	役に立った	1 16.7%
少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	1 16.7%
役に立たなかった	0 0.0%	役に立たなかった	0 0.0%	役に立たなかった	1 20.0%	役に立たなかった	0 0.0%	役に立たなかった	0 0.0%
2 企業実習	106時間	2 企業実習	108時間	2 アプリケーション開発実践演習	54時間	2 HTML・CSS/JavaScript/jQuery	240時間	2 タブレット等端末向けアプリ開発演習 (実践)	108時間
非常に役に立った	2 50.0%	非常に役に立った	0 0.0%	非常に役に立った	3 60.0%	非常に役に立った	1 33.3%	非常に役に立った	2 33.3%
役に立った	1 25.0%	役に立った	1 14.3%	役に立った	1 20.0%	役に立った	2 66.7%	役に立った	1 16.7%
少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	2 28.6%	少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	3 50.0%
役に立たなかった	1 25.0%	役に立たなかった	4 57.1%	役に立たなかった	1 20.0%	役に立たなかった	0 0.0%	役に立たなかった	0 0.0%
3 コーディング基礎実習	60時間	3 WEBプログラミング実習	96時間	3 データプログラミング演習	42時間	3 課題制作 (個人・グループ)	198時間	3 データベースを活用したWebアプリケーション開発演習	108時間
非常に役に立った	3 75.0%	非常に役に立った	5 71.4%	非常に役に立った	3 60.0%	非常に役に立った	2 66.7%	非常に役に立った	4 66.7%
役に立った	1 25.0%	役に立った	2 28.6%	役に立った	1 20.0%	役に立った	1 33.3%	役に立った	0 0.0%
少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	2 33.3%
役に立たなかった	0 0.0%	役に立たなかった	0 0.0%	役に立たなかった	1 20.0%	役に立たなかった	0 0.0%	役に立たなかった	0 0.0%
4 画像編集基礎実習	54時間	4 アプリケーション制作実習	90時間	4 Webアプリケーション開発基礎演習	23時間	4 基本情報A (基礎理論関連)	54時間	4 工場内ネットワーク構築演習	108時間
非常に役に立った	2 50.0%	非常に役に立った	6 85.7%	非常に役に立った	3 60.0%	非常に役に立った	1 33.3%	非常に役に立った	2 33.3%
役に立った	0 0.0%	役に立った	1 14.3%	役に立った	1 20.0%	役に立った	2 66.7%	役に立った	2 33.3%
少し役に立った	2 50.0%	少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	1 16.7%
役に立たなかった	0 0.0%	役に立たなかった	0 0.0%	役に立たなかった	1 20.0%	役に立たなかった	0 0.0%	役に立たなかった	1 16.7%
5 JavaScript基礎実習	42時間	5 データベースプログラミング実習	48時間	5 Webアプリケーション開発応用演習	39時間	5 Linux	45時間	5 サーバ構築・運用演習	108時間
非常に役に立った	2 50.0%	非常に役に立った	7 100.0%	非常に役に立った	3 60.0%	非常に役に立った	0 0.0%	非常に役に立った	2 33.3%
役に立った	0 0.0%	役に立った	0 0.0%	役に立った	1 20.0%	役に立った	2 66.7%	役に立った	2 33.3%
少し役に立った	1 25.0%	少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	2 33.3%
役に立たなかった	1 25.0%	役に立たなかった	0 0.0%	役に立たなかった	1 20.0%	役に立たなかった	1 33.3%	役に立たなかった	0 0.0%
6 訓練導入講習	24時間	6 アプリケーション企画実習	24時間	6 アプリケーション開発総合演習	76時間	6 フローチャート	45時間	6 クラウドシステム構築演習	54時間
非常に役に立った	1 25.0%	非常に役に立った	5 71.4%	非常に役に立った	3 60.0%	非常に役に立った	1 33.3%	非常に役に立った	3 50.0%
役に立った	3 75.0%	役に立った	0 0.0%	役に立った	1 20.0%	役に立った	2 66.7%	役に立った	1 16.7%
少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	2 33.3%
役に立たなかった	0 0.0%	役に立たなかった	2 28.6%	役に立たなかった	1 20.0%	役に立たなかった	0 0.0%	役に立たなかった	0 0.0%
7 Web基礎知識/制作知識	12時間	7 訓練導入講習	24時間	7 環境設定実習	5時間	7 基本情報C (ネットワーク関連)	30時間	7 Webプログラミング (JavaScript) 基礎・応用演習	54時間
非常に役に立った	1 25.0%	非常に役に立った	4 57.1%	非常に役に立った	3 60.0%	非常に役に立った	1 33.3%	非常に役に立った	3 50.0%
役に立った	3 75.0%	役に立った	0 0.0%	役に立った	2 40.0%	役に立った	2 66.7%	役に立った	1 16.7%
少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	3 42.9%	少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	1 16.7%
役に立たなかった	0 0.0%	役に立たなかった	0 0.0%	役に立たなかった	0 0.0%	役に立たなかった	0 0.0%	役に立たなかった	1 16.7%
8 デザイン基礎概論	6時間	8 HTML/CSS実習	12時間	8 ITリテラシー概論	5時間	8 基本情報D (セキュリティ関連)	30時間		
非常に役に立った	1 25.0%	非常に役に立った	4 57.1%	非常に役に立った	5 100.0%	非常に役に立った	2 66.7%		
役に立った	3 75.0%	役に立った	2 28.6%	役に立った	0 0.0%	役に立った	1 33.3%		
少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	1 14.3%	少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	0 0.0%		
役に立たなかった	0 0.0%	役に立たなかった	0 0.0%	役に立たなかった	0 0.0%	役に立たなかった	0 0.0%		
9 コンピュータ基本操作実習	3時間	9 情報セキュリティ基本概論	12時間	9 ソフトウェア開発概論	10時間	9 SQL	21時間		
非常に役に立った	1 25.0%	非常に役に立った	3 42.9%	非常に役に立った	5 100.0%	非常に役に立った	3 100.0%		
役に立った	3 75.0%	役に立った	2 28.6%	役に立った	0 0.0%	役に立った	0 0.0%		
少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	2 28.6%	少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	0 0.0%		
役に立たなかった	0 0.0%	役に立たなかった	0 0.0%	役に立たなかった	0 0.0%	役に立たなかった	0 0.0%		
10 開発手法概論	6時間	10 開発手法概論	6時間	10 安全衛生	2時間	10 基本情報E (マネジメント関連)	17時間		
非常に役に立った	3 42.9%	非常に役に立った	3 42.9%	非常に役に立った	4 80.0%	非常に役に立った	1 33.3%		
役に立った	4 57.1%	役に立った	4 57.1%	役に立った	1 20.0%	役に立った	2 66.7%		
少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	0 0.0%	少し役に立った	0 0.0%		
役に立たなかった	0 0.0%	役に立たなかった	0 0.0%	役に立たなかった	0 0.0%	役に立たなかった	0 0.0%		

委託訓練①			委託訓練②			支援訓練			技専校			ポリテク		
就職後に感じた、受講した訓練のカリキュラムには無かったが、学べたらより良かったと思う知識やスキルを教えてください。														
あり	2	50.0%	あり	4	57.1%	あり	3	60.0%	あり	2	66.7%	あり	3	50.0%
なし	2	50.0%	なし	3	42.9%	なし	2	40.0%	なし	1	33.3%	なし	3	50.0%
上記で「あり」とした場合、具体的な知識やスキルを教えてください。														
<ul style="list-style-type: none"> PHP、wordpress より実践的なことを学べたらもっと良かった 			<ul style="list-style-type: none"> コードをより綺麗に見せる方法や考え方 サーバーとWebページの関係性 AWSなど、クラウド系の知識も学べると良かったと思う。 グループで一つ開発することが業務でグループ活動をするときに役立ったので、もう少し時間が欲しかった 			<ul style="list-style-type: none"> ネットワーク系 定数の利用の仕方やクラスわけの仕方。デザインパターンなど 設計についての知識 			<ul style="list-style-type: none"> JSP、サーブレット JAVAのデスクトップアプリ開発の授業、もしくはPython 			<ul style="list-style-type: none"> バッチの文法の実習 PC自体の基礎（ドライバ、OS、64bit/32bit等） C言語 		
上記で「あり」とした理由を教えてください。														
<ul style="list-style-type: none"> wordpressでの制作の方が、圧倒的に多い。 より実践的なことを学べたらもっと良かった 			<ul style="list-style-type: none"> 現在、よりシンプルに分かりやすくコードを書く事に苦悩しているから 知って面白かったので受講中に知ることができたら、就職の選択肢が増えるかなと 現在の就職先が業務でクラウドサーバーを使用しているため。 			<ul style="list-style-type: none"> SE、プログラマーとは言え、自分のPCの設定不具合は直したいし、データベースやサーバーの知識は必要 入社してから、現場のコードと自分のコードの差を強く感じたため。 現在の業務で必要なので 			<ul style="list-style-type: none"> 求人募集などで特に多く募集されていたスキルなので。 			<ul style="list-style-type: none"> 頻繁に記述する機会があったため。 C#が仕事に必要なだったから。 		
上記で「なし」とした理由を教えてください。														
<ul style="list-style-type: none"> 4ヶ月なので、妥当な内容だと思う カリキュラムの進め方や内容を改善していく必要があると思いました。 			<ul style="list-style-type: none"> 就職先によって変わるので、基礎を抑えるカリキュラムでよかったと思った 初心者には丁度良い範囲、レベルのカリキュラムだと感じたため。 			<ul style="list-style-type: none"> 言語や開発について基礎から学べる充実した内容だった。 IT関連知識が全くない状態だった私でも、半年間という期限がある中でとてもバランス良く教えていただけたと思っています。 								
訓練校の就職支援で役に立ったものを教えてください。														
あり	3	75.0%	あり	7	100.0%	あり	3	60.0%	あり	2	66.7%	あり	4	66.7%
なし	1	25.0%	なし	0	0.0%	なし	2	40.0%	なし	1	33.3%	なし	2	33.3%
上記で「あり」とした場合、具体的な就職支援を教えてください。														
<ul style="list-style-type: none"> HTML 実制作 ソフトの基礎操作や基礎知識は現場では丁寧に教えて貰えないので、最初から学べて役に立った。 			<ul style="list-style-type: none"> 履歴書など慣れない書類作成を手伝っていただけなこと 就職支援や、プログラミングについて全般的に役に立った。 定期的に履歴書などの添削をしてくださったので助かりました。 自己分析を深く考える支援が役に立ちました。 就職支援のカテゴリに入るのか不明ですが、名刺交換の仕方や上座下座について学べたのは良かったと思います。 データベースについて学んでいたことで業務に入りやすくなった 			<ul style="list-style-type: none"> 企業に送るメールの添削などしてもらった。また、紹介された企業に入社しました 就職活動の仕方や面接についての支援 ハローワークでピックアップした求人票を見ていただいたり、履歴書や職務経歴書の書き方のアドバイスなど。 			<ul style="list-style-type: none"> 製作課題 			<ul style="list-style-type: none"> プログラミング、インフラ周りの知識の両方も役立っております。 		

委託訓練①	委託訓練②	支援訓練	技専校	ポリテク
<ul style="list-style-type: none"> ・就職後に、基礎知識があったので話についていた ・実制作で、ヒアリングからプレゼン、制作まで作成したので、その経験は活かしている ・ソフトの基礎操作や基礎知識は現場では丁寧に教えて貰えないので、最初から学べて役に立った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・慣れていないので、分からない事が多かったため ・先生・環境・周りの友人達が良かったから ・聞きに行くのに踏み切りつかずにいたのでルーティーンとして存在していて本当に良かったです。 ・自分が働く上で大事にしていることを再度確認出来てよかったです。また、定期的に面談があったので就職意欲が下がることなくそのまま就職できました。 ・履歴書等の書類作成。とても素敵に添削してもらえた。 ・訓練前は名刺交換などの経験が無かったため。 	<p>上記で「あり」とした理由を教えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メールの添削のおかげで、入社してからビジネスメールを作成するのに慣れるのがはやかったです。 ・自己理解が深められたこと、就職活動の進め方がより具体的になった ・いつでも相談にのっていただけなので、とてもありがたいと思っているため。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスマナー講座が役に立った。 ・実際に手を動かして科発工程を学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常に使うため。 ・実際に業務で用いたので。リモート授業は今古リモートの仕事をしているのですが、初めてリモートで仕事をするにあたって授業を受けていたことが安心材料になったためです。（不安が少なかった。） ・ネットワークの知識が全くない状態とは全然スタートが違うと感じたから。開発演習で行った事は、データベースの考え方等に約に立った。データベースを使う事が仕事で多いから。
<ul style="list-style-type: none"> ・適した就職活動のサイトやアプライしていくベースなど適切に進めることができた。 		<p>上記で「なし」とした理由を教えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とにかく、応募あるのみ。だが、尽く年齢で面接以前に断られました。 ・自身の進路について向き合う時間を頂けた。ただ、実際、何にどう役立ったかとなると特になかった。 		

令和5年度 公的職業訓練効果検証ワーキンググループ ヒアリング結果【採用企業】

委託訓練②		支援訓練		技専校		ポリテク																																																													
ヒアリング数 2		ヒアリング数 1		ヒアリング数 1		ヒアリング数 2																																																													
貴社の業種を教えてください。																																																																			
<ul style="list-style-type: none"> IT (システム開発) IT 		<ul style="list-style-type: none"> システム開発保守 		<ul style="list-style-type: none"> 情報処理サービス 		<ul style="list-style-type: none"> 情報システムサービス業 情報サービス 																																																													
採用した訓練修了者の就業状況を教えてください。																																																																			
職種・業務																																																																			
<ul style="list-style-type: none"> システムエンジニア システムエンジニア、システム開発 		<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト管理 		<ul style="list-style-type: none"> 初級プログラマー 		<ul style="list-style-type: none"> プログラマ ソフトウェア開発 																																																													
採用時期																																																																			
<ul style="list-style-type: none"> 令和5年1月 令和5年4月 		<ul style="list-style-type: none"> 令和4年12月 		<ul style="list-style-type: none"> 令和5年4月 		<ul style="list-style-type: none"> 令和4年11月 令和4年12月 																																																													
雇用形態																																																																			
<ul style="list-style-type: none"> 正社員 正社員 		<ul style="list-style-type: none"> 正社員 		<ul style="list-style-type: none"> 正社員 		<ul style="list-style-type: none"> 正社員 正社員 																																																													
採用した一番のポイントを教えてください。																																																																			
<table border="1"> <tr><td>経歴、実績</td><td>0</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>人柄、意欲、将来性</td><td>2</td><td>100.0%</td></tr> <tr><td>知識、スキル</td><td>0</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>免許、資格</td><td>0</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>0</td><td>0.0%</td></tr> </table>		経歴、実績	0	0.0%	人柄、意欲、将来性	2	100.0%	知識、スキル	0	0.0%	免許、資格	0	0.0%	その他	0	0.0%	<table border="1"> <tr><td>経歴、実績</td><td>0</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>人柄、意欲、将来性</td><td>1</td><td>100.0%</td></tr> <tr><td>知識、スキル</td><td>0</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>免許、資格</td><td>0</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>0</td><td>0.0%</td></tr> </table>		経歴、実績	0	0.0%	人柄、意欲、将来性	1	100.0%	知識、スキル	0	0.0%	免許、資格	0	0.0%	その他	0	0.0%	<table border="1"> <tr><td>経歴、実績</td><td>0</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>人柄、意欲、将来性</td><td>0</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>知識、スキル</td><td>0</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>免許、資格</td><td>0</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>0</td><td>0.0%</td></tr> </table>		経歴、実績	0	0.0%	人柄、意欲、将来性	0	0.0%	知識、スキル	0	0.0%	免許、資格	0	0.0%	その他	0	0.0%	<table border="1"> <tr><td>経歴、実績</td><td>0</td><td></td></tr> <tr><td>人柄、意欲、将来性</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>知識、スキル</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>免許、資格</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>その他</td><td>0</td><td></td></tr> </table>		経歴、実績	0		人柄、意欲、将来性	2		知識、スキル	1		免許、資格	1		その他	0	
経歴、実績	0	0.0%																																																																	
人柄、意欲、将来性	2	100.0%																																																																	
知識、スキル	0	0.0%																																																																	
免許、資格	0	0.0%																																																																	
その他	0	0.0%																																																																	
経歴、実績	0	0.0%																																																																	
人柄、意欲、将来性	1	100.0%																																																																	
知識、スキル	0	0.0%																																																																	
免許、資格	0	0.0%																																																																	
その他	0	0.0%																																																																	
経歴、実績	0	0.0%																																																																	
人柄、意欲、将来性	0	0.0%																																																																	
知識、スキル	0	0.0%																																																																	
免許、資格	0	0.0%																																																																	
その他	0	0.0%																																																																	
経歴、実績	0																																																																		
人柄、意欲、将来性	2																																																																		
知識、スキル	1																																																																		
免許、資格	1																																																																		
その他	0																																																																		
採用選考で訓練を受講していたことの評価とその理由を教えてください。																																																																			
<table border="1"> <tr><td>高く評価</td><td>1</td><td>50.0%</td></tr> <tr><td>ある程度評価</td><td>1</td><td>50.0%</td></tr> <tr><td>評価していない</td><td>0</td><td>0.0%</td></tr> </table>		高く評価	1	50.0%	ある程度評価	1	50.0%	評価していない	0	0.0%	<table border="1"> <tr><td>高く評価</td><td>1</td><td>100.0%</td></tr> <tr><td>ある程度評価</td><td>0</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>評価していない</td><td>0</td><td>0.0%</td></tr> </table>		高く評価	1	100.0%	ある程度評価	0	0.0%	評価していない	0	0.0%	<table border="1"> <tr><td>高く評価</td><td>1</td><td>100.0%</td></tr> <tr><td>ある程度評価</td><td>0</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>評価していない</td><td>0</td><td>0.0%</td></tr> </table>		高く評価	1	100.0%	ある程度評価	0	0.0%	評価していない	0	0.0%	<table border="1"> <tr><td>高く評価</td><td>2</td><td>100.0%</td></tr> <tr><td>ある程度評価</td><td>0</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>評価していない</td><td>0</td><td>0.0%</td></tr> </table>		高く評価	2	100.0%	ある程度評価	0	0.0%	評価していない	0	0.0%																								
高く評価	1	50.0%																																																																	
ある程度評価	1	50.0%																																																																	
評価していない	0	0.0%																																																																	
高く評価	1	100.0%																																																																	
ある程度評価	0	0.0%																																																																	
評価していない	0	0.0%																																																																	
高く評価	1	100.0%																																																																	
ある程度評価	0	0.0%																																																																	
評価していない	0	0.0%																																																																	
高く評価	2	100.0%																																																																	
ある程度評価	0	0.0%																																																																	
評価していない	0	0.0%																																																																	
理由																																																																			
<ul style="list-style-type: none"> WEB採用の問題は経歴や人柄など面接でしか判断できず、採用後に組織やチームで働くことが困難な人が多いが、職業訓練校を卒業した人は敢えて人と接してスキルを高めようという意欲がある人が多いので、採用後も他社員と士気を高めながら楽しく仕事ができる人が多いところを高く評価している。 また職業訓練では社会（IT業界）の実情や厳しさも教えてくださっていて、すでに心構えができています。 多い点は大変ありがたく思っています。 プログラミング技術は必須なので、何かしらのプログラミングを学んでこられたことは、評価対象として考慮した。 		<ul style="list-style-type: none"> Javasilver取得で知識を習得していた 		<ul style="list-style-type: none"> ITの基礎、考え方を身につけていること。 		<ul style="list-style-type: none"> 当社の研修で下地があったため労せず普段より先の研修ができました。 プログラムに関する能力が高い。 																																																													

委託訓練②		支援訓練		技専校		ポリテク		
次の科目の受講が、採用後どれくらい役に立っていると感じているか教えてください。								
1 Javaプログラミング演習（基礎・応用） 108時間		1 Java言語演習（初歩、基本、応用、実用） 338時間		1 Java/PHP 308時間		1 Java言語によるアプリ開発演習（基礎） 108時間		
非常に役に立っている	0	0.0%	非常に役に立っている	1	100.0%	非常に役に立っている	0	0.0%
役に立っている	1	50.0%	役に立っている	0	0.0%	役に立っている	1	100.0%
少し役に立っている	1	50.0%	少し役に立っている	0	0.0%	少し役に立っている	0	0.0%
役に立たっていない	0	0.0%	役に立たっていない	0	0.0%	役に立たっていない	0	0.0%
2 企業実習 108時間		2 アプリケーション開発実践演習 54時間		2 HTML・CSS/JavaScript/jQuery 240時間		2 タブレット等端末向けアプリ開発演習（実践） 108時間		
非常に役に立っている	0	0.0%	非常に役に立っている	1	100.0%	非常に役に立っている	0	0.0%
役に立っている	0	0.0%	役に立っている	0	0.0%	役に立っている	1	100.0%
少し役に立っている	1	50.0%	少し役に立っている	0	0.0%	少し役に立っている	0	0.0%
役に立たっていない	1	50.0%	役に立たっていない	0	0.0%	役に立たっていない	1	50.0%
3 WEBプログラミング実習 96時間		3 データプログラミング演習 42時間		3 課題制作（個人・グループ） 198時間		3 データベースを活用したWebアプリケーション開発演習 108時間		
非常に役に立っている	0	0.0%	非常に役に立っている	1	100.0%	非常に役に立っている	1	100.0%
役に立っている	1	50.0%	役に立っている	0	0.0%	役に立っている	0	0.0%
少し役に立っている	1	50.0%	少し役に立っている	0	0.0%	少し役に立っている	0	0.0%
役に立たっていない	0	0.0%	役に立たっていない	0	0.0%	役に立たっていない	0	0.0%
4 アプリケーション制作実習 90時間		4 Webアプリケーション開発基礎演習 238時間		4 基本情報A（基礎理論関連） 54時間		4 工場内ネットワーク構築演習 108時間		
非常に役に立っている	1	50.0%	非常に役に立っている	1	100.0%	非常に役に立っている	1	100.0%
役に立っている	0	0.0%	役に立っている	0	0.0%	役に立っている	0	0.0%
少し役に立っている	1	50.0%	少し役に立っている	0	0.0%	少し役に立っている	0	0.0%
役に立たっていない	0	0.0%	役に立たっていない	0	0.0%	役に立たっていない	0	0.0%
5 データベースプログラミング実習 48時間		5 Webアプリケーション開発応用演習 39時間		5 Linux 45時間		5 サーバ構築・運用演習 108時間		
非常に役に立っている	1	50.0%	非常に役に立っている	1	100.0%	非常に役に立っている	0	0.0%
役に立っている	0	0.0%	役に立っている	0	0.0%	役に立っている	0	0.0%
少し役に立っている	1	50.0%	少し役に立っている	0	0.0%	少し役に立っている	1	100.0%
役に立たっていない	0	0.0%	役に立たっていない	0	0.0%	役に立たっていない	0	0.0%
6 アプリケーション企画実習 24時間		6 アプリケーション開発総合演習 76時間		6 フローチャート 45時間		6 クラウドシステム構築演習 54時間		
非常に役に立っている	0	0.0%	非常に役に立っている	1	100.0%	非常に役に立っている	0	0.0%
役に立っている	0	0.0%	役に立っている	0	0.0%	役に立っている	0	0.0%
少し役に立っている	1	50.0%	少し役に立っている	0	0.0%	少し役に立っている	1	100.0%
役に立たっていない	1	50.0%	役に立たっていない	0	0.0%	役に立たっていない	0	0.0%
7 訓練導入講習 24時間		7 環境設定実習 5時間		7 基本情報C（ネットワーク関連） 30時間		7 Webプログラミング（JavaScript）基礎・応用演習 54時間		
非常に役に立っている	1	50.0%	非常に役に立っている	1	100.0%	非常に役に立っている	0	0.0%
役に立っている	0	0.0%	役に立っている	0	0.0%	役に立っている	0	0.0%
少し役に立っている	1	50.0%	少し役に立っている	0	0.0%	少し役に立っている	1	100.0%
役に立たっていない	0	0.0%	役に立たっていない	0	0.0%	役に立たっていない	0	0.0%
8 HTML/CSS実習 12時間		8 ITリテラシー概論 5時間		8 基本情報D（セキュリティ関連） 30時間		7 Webプログラミング（JavaScript）基礎・応用演習 54時間		
非常に役に立っている	0	0.0%	非常に役に立っている	1	100.0%	非常に役に立っている	0	0.0%
役に立っている	1	50.0%	役に立っている	0	0.0%	役に立っている	0	0.0%
少し役に立っている	0	0.0%	少し役に立っている	0	0.0%	少し役に立っている	1	100.0%
役に立たっていない	1	50.0%	役に立たっていない	0	0.0%	役に立たっていない	0	0.0%
9 情報セキュリティ基本概論 12時間		9 ソフトウェア開発概論 10時間		9 SQL 21時間		7 Webプログラミング（JavaScript）基礎・応用演習 54時間		
非常に役に立っている	0	0.0%	非常に役に立っている	1	100.0%	非常に役に立っている	1	100.0%
役に立っている	1	50.0%	役に立っている	0	0.0%	役に立っている	0	0.0%
少し役に立っている	1	50.0%	少し役に立っている	0	0.0%	少し役に立っている	0	0.0%
役に立たっていない	0	0.0%	役に立たっていない	0	0.0%	役に立たっていない	0	0.0%

委託訓練②			支援訓練			技専校			ポリテク																																						
10 開発手法概論 6時間 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>非常に役に立っている</td> <td>1</td> <td>50.0%</td> </tr> <tr> <td>役に立っている</td> <td>0</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>少し役に立っている</td> <td>1</td> <td>50.0%</td> </tr> <tr> <td>役に立っていない</td> <td>0</td> <td>0.0%</td> </tr> </table>			非常に役に立っている	1	50.0%	役に立っている	0	0.0%	少し役に立っている	1	50.0%	役に立っていない	0	0.0%	10 安全衛生 2時間 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>非常に役に立っている</td> <td>1</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>役に立っている</td> <td>0</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>少し役に立っている</td> <td>0</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>役に立っていない</td> <td>0</td> <td>0.0%</td> </tr> </table>			非常に役に立っている	1	100.0%	役に立っている	0	0.0%	少し役に立っている	0	0.0%	役に立っていない	0	0.0%	10 基本情報B（マネジメント関連） 17時間 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>非常に役に立っている</td> <td>0</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>役に立っている</td> <td>0</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>少し役に立っている</td> <td>1</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>役に立っていない</td> <td>0</td> <td>0.0%</td> </tr> </table>			非常に役に立っている	0	0.0%	役に立っている	0	0.0%	少し役に立っている	1	100.0%	役に立っていない	0	0.0%			
非常に役に立っている	1	50.0%																																													
役に立っている	0	0.0%																																													
少し役に立っている	1	50.0%																																													
役に立っていない	0	0.0%																																													
非常に役に立っている	1	100.0%																																													
役に立っている	0	0.0%																																													
少し役に立っている	0	0.0%																																													
役に立っていない	0	0.0%																																													
非常に役に立っている	0	0.0%																																													
役に立っている	0	0.0%																																													
少し役に立っている	1	100.0%																																													
役に立っていない	0	0.0%																																													
訓練において、より一層習得しておくことが望ましい知識やスキル等を教えてください。																																															
<ul style="list-style-type: none"> どの職業訓練校も同じなのですが、javaなどはwebの技術なので、Linuxなどサーバー環境やアクセスの仕方の知識も教えてもらえると良いかと思ます。 アルゴリズムについて 			<ul style="list-style-type: none"> 特になし 			<ul style="list-style-type: none"> officeソフトの利用方法と文書作成 			<ul style="list-style-type: none"> Javaのフレームワークを使用した実践 職種が開発なので、プログラムに関する訓練を多くして欲しい。 																																						
訓練未受講者を採用する場合と比較して、訓練修了者を採用する場合に期待することを教えてください。																																															
<ul style="list-style-type: none"> 組織で働けるヒューマンスキル（人と接することに抵抗無い）、コミュニケーション力、仕事に対する意欲、チャレンジ精神 に期待しています。 プログラミングの基礎知識の習得、プログラミングが好きかどうか、IT業界で仕事をしたいという意欲 			<ul style="list-style-type: none"> 仕事への意欲、IT知識 			<ul style="list-style-type: none"> 社会人経験とスキル獲得に対する意欲と向上心。 			<ul style="list-style-type: none"> 基礎スキルが身につけて意欲がある人 訓練生の場合、就業意識が高いところが評価できる。一般に応募する方は目的がない場合が多い。 																																						

令和5年度 公的職業訓練効果検証ワーキンググループ ヒアリング結果【訓練修了者を対象とした面接会参加企業】

企業A		企業B		企業C	
訓練修了者を採用したことがありますか。					
あり	✓	あり	✓	あり	✓
なし		なし		なし	
職種・業務					
情報技術者		情報処理技術者（見習い含む）		S E、P G	
採用した一番のポイントを教えてください。					
経歴、実績		経歴、実績		経歴、実績	
人柄、意欲、将来性	✓	人柄、意欲、将来性	✓	人柄、意欲、将来性	✓
知識、スキル		知識、スキル		知識、スキル	✓
免許、資格	✓	免許、資格		免許、資格	
その他		その他		その他	
※					
※資格の有り無しではなく、資格取得できる知識を持っているかが重要。（特にインフラ系ではオラクルの資格が必須。）					
採用選考で訓練を受講していたことの評価とその理由を教えてください。					
受講した意欲は評価するが、WEB系動画作成は、訓練で習得した知識技能があまり活かせられない。		学校の講師がエンジニア出身で、仕事のやり方、対応や心構えといった情報を先に与えてくれるので、イメージを共有しやすい。 WEB系の知識はあまり要さない。インターフェース部分に関して当社はあまり重要視していない。		基本的なプログラミングスキルがあり、上司の指導の下で業務可能。	

企業A	企業B	企業C
訓練において、より一層習得しておくことが望ましい知識やスキル等を教えてください。		
<p>知識的には大丈夫。強いて言えば資格情報は知っておいて欲しい。</p> <p>あとは、コミュニケーション力。入ってから活躍の場が広がる。</p>	<p>プログラム言語以前に、システム概論（コンピュータとは？ネットワークとは？といったもの）といった基礎部分を掘り下げられると有り難い。言語だけ知っていても、いざと言う時に全体イメージがつかないといった応用ができない人がまれにいる。</p>	<p>web系：JAVA</p> <p>組込系：C++（ポリテクではCしか学ばない）</p>
訓練未受講者を採用する場合と比較して、訓練修了者を採用する場合に期待することを教えてください。（自由記述）		
<p>やる気が垣間見られることや、飲み込みが早く馴染みやすいメリットがある。しかし、受講生の中にはどんな技術者を目指すか不明瞭な人も見られる。少なくとも受講後にはイメージを持つようにしてもらいたい。</p>	<p>訓練の中でグループワークの科目があると思うが、その中でこういった役割を担っていたかは聞きたいところ。明確に意図も含めて答えられると評価も高い。実際の業務も自ら進んでチームワークを考えて行動しなければならにことが多々あるため。</p>	

令和5年度 公的職業訓練効果検証ワーキンググループ ヒアリング結果【訓練実施機関】

委託訓練	支援訓練	技専校	ポリテク
募集、学科及び実技、就職支援の各場面において、訓練効果の向上のため取り組まれている工夫等を教えてください。			
募集			
Web広報を含め、説明会、体験会の実施。業界理解をする上で企業が必要とする人物像を把握することで目標を明確化し、学習効果を上げる。	事前説明会を随時実施し、訓練で習得する技術やレベルについて細かく説明し、受講希望者との間で認識が異ならないようにしている。	訓練目標を理解してもらうために、本校ホームページに生徒作品を掲載している。	就職を意識した募集チラシを作成している。
学科及び実技			
実践形式でスキルを高めるべく、企業と連携して作成したカリキュラムと実務経験の多い講師を配置し、実務内容を学習に置き換え、専門知識を養う。	テキストのサンプルコードを教えるだけでなく、オリジナルな練習問題を出来るだけ多く提供し、コードを書いて覚えてもらうアウトプットを重視した取り組みを行っている。 受講生が書いたコードを全員で共有し、その全コードに対して講師がレビューを行い、アドバイスを行う事で、実務に必要な能力や注意すべき点などレクチャーするようにしている。	なるべく実際の職場での事例を交えて指導している。	標準カリキュラムを基にしているが、地域の実情に沿ったカリキュラムとするため、ニーズ把握に努めている。
就職支援			
協力している人材紹介会社から多くの求人を紹介、および、訓練生が理想の将来像を考え経験豊富なキャリアコンサルタントから就職意識向上、目的の絞り込みをサポート。	実施が義務付けられているキャリアコンサルティングだけでなく、訓練生の様子を常に観察し、積極的にこちらから声掛けを行い、必要があればいつでも相談を受け付けるよう心掛けている。訓練校卒業生を積極的に採用している企業様の人事担当者などとの連携を強くするために、許可をいただけた訓練生の情報共有などを可能な限り行っている。	関連企業に就職する為に、当事者にとってどの部分を重点的に学習する必要があるか指導している。	訓練期間の早い段階から、就職を意識できるように、就職面談を行っている。
訓練コースのカリキュラムにおいて、就職に資するものとして最重点にしている学科及び実技の科目内容、その理由、その科目の効果を引き出すために行っている対応を教えてください。			
科目内容			
Javaプログラミングの読み書きの能力向上	Java言語応用演習	学科フローチャート	ソフトウェア開発
理由			
現場に入りプログラマーとして読み書きが必須。Java中心の力が必要。	オブジェクト指向の中心概念と実装方法を学習する内容のため	プログラミングするために考えをまとめる必要があるため。	就職先において必要とされるため
対応			
修了政策課題でチームで役割分担をし、業務管理システム作成を経験する。	簡単なものから応用的な内容の練習問題をたくさん解いてもらっている	基礎的なことを細かい段階に合わせた指導をしている。	

委託訓練		支援訓練		技専校		ポリテク	
訓練に関する資格や認定試験等の修生の取得の把握状況を教えてください。							
把握している		把握している		把握している	✓	把握している	
概ね把握している	✓	概ね把握している	✓	概ね把握している		概ね把握している	✓
把握していない		把握していない		把握していない		把握していない	
上記で「把握している」又は「概ね把握している」とした場合、資格の名称と取得状況を教えてください。							
認定試験スタンダード（Webクリエイター、Illustrator、photoshop）、ITパスポート、Javaプログラム認定2級 資格取得状況は10%程度		資格名称：Oracle Certified Java Programmer、Silver SE 8/SE 11 認定資格 取得状況：おおよそ30%程度		ITパスポート（入校生の33.3%） 基本情報技術者（入校生の22.2%）		基本情報技術者、J A V A S i l v e r、C C N A （各資格で受講生の概ね20%が取得）	
キャリアコンサルティング（CC）の実施状況を教えてください。							
自社のCC	✓	自社のCC	✓	自社のCC	✓	自社のCC	✓
外部のCC		外部のCC		外部のCC		外部のCC	
その他		その他		その他		その他	
1人当たりの実施回数・時間							
月1回、45分～1時間		訓練期間中は最低3回だが必要性があればそれ以上何度でも実施。1回あたり45分～90分程度		概ね3回で、1回あたり20分程度で実施。		3回、1回30分	
主な相談内容を教えてください。							
面接指導、業界・業種の絞り込みにより就職活動を決める。		IT業界の求人状況や自身のキャリアプランについての相談。IT業界にはどのような働き方があるのか？といった相談。応募書類の作成方法や面接で気を付けるべきこと等。		就職、適正、求人票の見方		年齢層によるが、キャリアに係る相談が主となる。	
訓練実施にあたって国に対する要望や改善事項を教えてください。							
質の良い先生、質の良い授業の展開を含め、就職する為の就職支援には費用がかかるので単価を上げてほしい。		奨励金の就職率の算定基準の見直し（委託などの個人事業主でも対象としてほしい） 賃料やパソコンなどの費用の補助 基本奨励金のベースアップ 就職活動期間（現状3か月）の延長		IPAの資格試験に沿ったカリキュラムを実施しており、国の訓練基準をこれに合わせていただきたい。			

令和5年度 公的職業訓練効果検証ワーキンググループ ヒアリングを踏まえた効果検証、改善促進策

委託訓練	支援訓練	技専校	ポリテク
ヒアリングを踏まえた効果検証			
デジタル分野全体で訓練効果が期待できる内容			
<p>ITの基礎知識を習得する「情報セキュリティ基本概論」やアプリケーション開発に必要な知識を習得する「開発手法概論」、Java等のプログラミング実習など実践形式による訓練を通じ、プログラマーとして必要な基礎的知識は習得できた。また、社会で働く上で必要な心構えや向上心など、社会人基礎力も身につけている。</p>	<p>ITリテラシー概論 ソフトウェア開発概論</p>	<p>ITの基礎知識、プログラミング、データベース、課題制作やビジネスマナーは訓練効果があるとみられ、プログラマーとして必要な基礎力は習得できている。</p>	<p>① J A V A 言語によるアプリ開発演習（基礎） ② データベースを活用した W e b アプリケーション開発演習</p>
(上記の理由)			
<p>上記内容の訓練においては、修了生の半数以上が「非常に役に立った」、「役に立った」と回答している【修了者アンケート2】。 就職支援においては、履歴書添削支援や自己分析に関する支援をはじめ、全ての修了生が「役に立った」と回答している【修了者アンケート4】。 採用企業へのアンケート実施が2社に止まったため、意見に相違がみられる項目はあるものの、職業訓練を受講していることは評価されており、職業訓練を受講していることでプログラミング知識を一定習得していること【採用企業アンケート4】やスキルを高めようとする意欲に対する評価、さらに、組織で働けるヒューマンスキルやコミュニケーション力などについても、採用の期待としていただいている【採用企業アンケート7】。 訓練実施機関においても、企業と連携したカリキュラム作成や実務経験の豊富な講師による講義、経験豊富なキャリアコンサルタントによる就職支援など、効果的な訓練実施に努めている【訓練実施機関アンケート1】。</p>	<p>修了者アンケート及び採用企業アンケートの結果、採用後の仕事において「非常に役立っている」との回答が100%となっており、今後の訓練においても期待できる内容であると思慮する。なお、他の科目においても役に立ったとの回答が80%以上となっており、当該訓練コースについては訓練効果が期待できるものと思慮する。</p>	<p>修了生、採用企業でばらつきはあるものの概ね役にたったと点数がついている。 採用企業で点数1のものもあるが応用的なカリキュラムのものが含まれており、「ITの基礎、考え方を身に付けている」ことを理由に、訓練受講を高く評価すると別の回答で頂いており、入社後に必要な基礎力は十分身につけていると考えられる。</p>	<p>就職先のプログラムの開発環境において、J A V A 及び S Q L の知識について、回答のあった修了生6名のうち、4名が当該内容について非常に役に立った、または役に立ったと回答していること。</p>

委託訓練	支援訓練	技専校	ポリテク
デジタル分野全体で訓練効果を上げるために改善すべき内容			
企業実習	IT技術の進展に対応したカリキュラムにブラッシュアップ	現在の指導内容の指導技法について、さらに精度をあげることに取り組む。	特になし
(上記の理由)			
<p>修了者アンケートにおいて、「少し役に立った」が28.6%、「役に立たなかった」が57.1%と、全体の85.7%を占めた【修了者アンケート2】。</p> <p>また、採用企業アンケート（2社）でも、「少し役に立っている」、「役に立っていない」と回答しており、他の項目と比べると低い評価となっている【採用企業アンケート5】。</p>	<p>修了者及び採用企業からは全ての科目において概ね満足を得ているところである。また、訓練実施機関においても訓練中及び就職支援において、訓練効果を最大限に高めるための工夫をしているところであり、今後必要に応じ、IT技術の進展に対応したカリキュラムにブラッシュアップしていくことにより、より訓練効果が高まると思慮する。</p>	<p>科目内容については全体的に評価いただいている。</p> <p>当科目は初級プログラマー養成を目指している。一部、修了生の要望であるJSP、サーブレット等は応用技術であり、それらを自学習できるぐらいの基礎知識・技能を指導している。</p>	<p>採用企業の開発環境により、C言語も必要となるが、J A V A 言語を習得することにより、C言語の学習は容易であると思慮するため。</p>
上記の効果検証結果を踏まえた訓練カリキュラム等の改善促進策			
<p>実習受入先企業については、訓練校において訓練生の希望や習得レベルなどを踏まえて選定いただいているが、受講生の就職ニーズや企業の採用基準の多様化も影響しているものと思われる。</p> <p>訓練校に配付している「事務の手引き」において、実習中の実習受入先企業に対する1回以上の訪問と訓練実施状況等の把握等のフォローを行うことを求めているが、今後は訓練生・実習受入先企業双方に対してより丁寧なフォローを行うなど、訓練生及び実習受入先企業双方に有益な企業実習となるよう、改善を図る。</p>	<p>申請、認定事務及び実施状況確認の際に情報提供を行う。</p>	<p>急速に発展するITの基礎知識・技術を習得できるよう訓練コースへ反映する。</p> <p>昨今ではスマートフォンアプリの開発を行う企業も多く、それに対応できるカリキュラムを実施し、職域を広げていく予定である。</p>	<p>施設内訓練において、プログラミングとネットワークインフラの技術等を習得するが、採用された企業により、必要性にバラツキがあることから、当面の期間は当該カリキュラムを継続すること。</p>

【資料4】

令和5年度
大阪府地域職業訓練実施計画変更
(案)

令和5年度大阪府地域職業訓練実施計画の変更（追加）について

（目的）

「令和5年度地方財政対策の概要」（総務省）において、「地域におけるリスクリングの推進に関する地方財政措置の創設」が公表され、対象事業として、地域職業訓練実施計画に位置付けられる地方単独事業として実施される、地域に必要な人材確保（中小企業、農林水産、介護等）のため、デジタル・グリーン等成長分野に関するリスクリングの推進に資する事業について、特別交付税措置を講じることとされた（参考資料）。

（変更内容）

大阪府地域職業訓練実施計画の最終章に、下記の章を追記する。

4 地域におけるリスクリングの推進に関する事業

地域に必要な人材を確保するため、経営者等の意識改革・理解促進や、従業員（在職者）の理解促進、リスクリング実施の支援など、リスクリングの推進に資する事業を実施することができる。

なお、具体的な事業の実施に当たっては、大阪府地域職業能力開発促進協議会において報告する。

（変更時期）

令和5年11月

概要

【対象事業】地域に必要な人材確保(中小企業、農林水産、介護等)のため、デジタル・グリーン等成長分野に関するリスキリングの推進に資する、

- ①経営者等の意識改革・理解促進
- ②リスキリングの推進サポート等
- ③従業員(在職者)の理解促進・リスキリング支援

※ 地域職業訓練実施計画(職業能力開発促進法第15条第1項の協議会で策定する計画)に位置付けられる地方単独事業を対象(地方単独事業が対象であることから、運営費に国の交付金が交付されている職業能力開発校等が実施する事業を含め、国又は都道府県から補助金等が交付されている事業は対象外となります)

※ 事業の対象者を離職者等とする事業については、本地方財政措置の対象として想定していないこと

【事業期間】令和8年度まで

【地方財政措置】特別交付税措置(措置率0.5)

【対象事業例】

①経営者等の意識改革・理解促進

経営者向けセミナー開催、産学官のリスキリング協議会の設置・運営、経済団体等のリスキリング支援に関する理解促進等

②リスキリングの推進サポート等

専門家・アドバイザー派遣による企業のリスキリング計画策定支援、相談窓口によるワンストップ支援、地域の支援人材不足解消のためのリスキリング推進人材育成等

③従業員(在職者)の理解促進・リスキリング支援

従業員向けセミナー開催、従業員向け短期講座開催、資格試験経費助成等

(参考) 地域職業能力開発促進協議会

国及び都道府県は、地域の関係者・関係機関を参集し、職業能力に関する有用な情報を共有し、地域の実情やニーズに即した公的職業訓練の設定・実施、職業訓練効果の把握・検証、その他の職業能力の開発・向上の促進のための関係機関の取組の協議等を行う都道府県単位の協議会を組織する。

【構成員】

①都道府県労働局 ②都道府県 ③公共職業能力開発施設を設置する市町村

④職業訓練・教育訓練実施機関(専門学校・各種学校、高齢・障害・求職者雇用支援機構、リカレント教育実施大学等 等)

⑤労働者団体 ⑥事業主団体 ⑦職業紹介事業者(団体)又は特定募集情報等提供事業者(団体) ⑧学識経験者

⑨その他協議会が必要と認める者(例:デジタル分野の専門家、地方自治体の生活困窮者自立支援制度主管部局 等)

.....主催

令和5年度大阪府地域職業訓練実施計画

令和5年4月1日
大阪労働局
大阪府
独立行政法人高齢・障害・求職者
雇用支援機構大阪支部

第1 総則

1 計画のねらい

産業構造の変化、技術の進歩その他の経済的環境の変化の中で、職業の安定、労働者の地位の向上及び経済社会の発展を図るためには、これらによる業務の内容の変化に対する労働者の適応性を増大させ、及び円滑な就職に資するよう、労働者に対して適切な職業能力開発を行う必要がある。

そのためには、国及び大阪府が職業能力開発促進法（以下「能開法」という。）第16条第1項の規定に基づき設置する公共職業能力開発施設（以下「公共職業能力開発施設」という。）において実施する職業訓練（能開法第15条の7第3項の規定に基づき実施する職業訓練（以下「委託訓練」という。）を含む。以下「公共職業訓練」という。）及び職業訓練の実施等による特定求職者の就職の支援に関する法律第4条第1項の規定により厚生労働大臣の認定を受けた職業訓練（以下「求職者支援訓練」という。）の充実を図ることにより、労働者の十分な職業能力開発の機会を確保する必要がある。

本計画は、本計画の対象期間（以下「計画期間」という。）中における対象者数や訓練内容等を明確にし、計画的な公共職業訓練及び求職者支援訓練（以下「公的職業訓練」という。）の実施を通じて、職業の安定、労働者の地位の向上等を図るものである。

※公的職業訓練の実施主体

【公共職業訓練】

- ・大阪府
- ・国（独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構〈関西職業能力開発促進センター、近畿職業能力開発大学校〉）

【求職者支援訓練】

- ・国（大阪労働局）

2 計画期間

計画期間は、令和5年4月1日から令和6年3月31日までとする。

3 計画の改定

本計画は、公的職業訓練の実施状況等を踏まえ、必要な場合には改定を行うものとする。

第2 労働市場の動向と課題等

1 労働市場の動向と課題

大阪府における雇用失業情勢は、令和4年12月の有効求人倍率が1.30倍と長引く新型コロナウイルス感染症の影響等により一部に厳しさがみられるものの、緩やかに持ち直しの動きが続いている状況にある。一方、コロナ禍からの経済活動の再開に伴って人手不足感が再び深刻化し、また、中長期的にみると、少子化により労働力人口が減少するという課題を抱えている。

大阪府においては、女性の就業率が全国と比較して低く女性の就業が進んでいないことや、就職氷河期世代をはじめ、希望する就職が実現できず、不本意ながら不安定な仕事についている非正規雇用労働者など、女性・若者・非正規雇用労働者の就業を促進していくことが重要な課題となっている。

また、デジタル田園都市国家構想総合戦略に基づくデジタル人材の育成、製造、建設、福祉分野等人材不足が深刻な分野における人材確保がより一層重要となっている。

さらに、2025年には大阪・関西万博が開催されることとなっており、その人材確保が喫緊の課題となっている。

これらの課題解決に向け、生産性の向上や円滑な労働移動、多様な人材の労働参画に向けた「人への投資」の取組が推進されているところであり、公的職業訓練の重要性についても高まっている。

2 令和4年度における公的職業訓練をめぐる状況

令和4年度の新規求職者は令和4年11月末現在で229,667人であり、そのうち特定求職者に該当する可能性のある者の数は97,618人（対前年同期比▲0.2%）、雇用保険受給者は82,952人（対前年同期比+1.8%）となっている。

(1) 令和4年度の職業訓練の受講者数は次のとおり（令和4年11月末現在）。

- ・ 公共職業訓練（施設内／離職者訓練） 511人
大阪府 188人、関西職業能力開発促進センター 323人
- ・ 公共職業訓練（委託訓練／離職者訓練／大阪府） 2,263人
離職者等再就職訓練 1,983人
企業実習付き訓練 280人
- ・ 公共職業訓練（在職者訓練） 4,990人
大阪府 809人、関西職業能力開発促進センター 3,246人、近畿職業能力開発大学校 935人
- ・ 公共職業訓練（学卒者訓練） 694人
大阪府 273人、近畿職業能力開発大学校 398人 大阪港湾労働分所 23人
- ・ 障がい者等に対する公共職業訓練（施設内/大阪府） 291人
- ・ 障がい者の多様なニーズに対応した委託訓練（短期委託訓練／大阪府） 70人
- ・ 求職者支援訓練 3,658人

(2) 令和4年度の職業訓練の就職率は次のとおり。

- ・ 公共職業訓練（離職者訓練）※1 施設内訓練 大阪府 95.3%
関西職業能力開発促進センター 86.4%
- ※2 委託訓練 82.0%
- ・ 求職者支援訓練 ※3 基礎コース 45.1%
実践コース 65.9%

※1 令和4年12月末現在

※2 令和4年8月末までに終了した訓練の就職率で令和3年度に実施した訓練を含む。

※3 令和4年4月から7月末までの訓練修了者等の訓練修了後3ヶ月の雇用保険適用就職率

第3 令和5年度の公的職業訓練の実施方針

離職者等を対象とする公的職業訓練については、2025年に開催される大阪・関西万博なども踏まえ、デジタル分野等成長が見込まれる分野、製造、建設、福祉分野等人材不足が深刻な分野における人材育成に重点を置き、訓練コースを設定する。また、「就職氷河期世代等正規雇用を希望しながら非正規雇用で働き続けている者」、「女性」、「若年者」、「障がい者」、「中高年齢者」等の人材育成に資する訓練を実施する。さらに、多様な事情を抱える求職者等が、生活との調和を保ちつつ職業訓練を受講で

きるよう実施期間・時間に配慮した訓練コース、オンラインを活用した訓練コース（eラーニング含む）、託児サービス付き訓練コースの設定を推進する。

第4 計画期間中の公的職業訓練の対象者数等

1 離職者に対する公的職業訓練

(1) 施設内訓練に係る実施規模と分野

- ・大阪府は、7科目、315人（障がい者向け訓練を除く）の定員で実施する。
- ・訓練受講者の就職率は80%を目指す。
- ・府立高等職業技術専門学校は、15歳以上の離職者を対象に訓練期間6か月以上の訓練を実施する。

校名	定員	科目名
東大阪高等職業技術専門学校	175人	ものづくり金属科（新設）、機械加工・営業科、機械CADデザイン科、ビル管理科（新設）
夕陽丘高等職業技術専門学校	140人	ビル設備管理科、ビルクリーニング管理科 建築内装CAD科
合計	315人	7科目

i 一人親家庭と高齢者層を支援するため、「ひとり親家庭の親優先枠」「高齢者優先枠」（年間合計70人）を設定【夕陽丘高等職業技術専門学校】

- ・（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構大阪支部では、12科目、594人の定員で実施する。
- ・訓練受講者の就職率は82.5%を目指す。

校名	定員	科目名
関西職業能力開発促進センター	594人	CAD/CAM技術科、CAD機械設計科、CAD/NC技術科（デュアルシステム）、CAD/NC技術科、ものづくりサポート技術科、メタルワーク科（デュアルシステム）、電気設備技術科、IoTシステム開発科、同（橋渡し訓練）、ICTエンジニア科、ものづくりロボット技術科、同（橋渡し訓練）
合計	594人	12科目

i 子育て中の方等の訓練受講を容易にするために全ての科目で託児サービスを提供

ii ITリテラシーに関する学科を全ての科目に導入

(2) 委託訓練に係る実施規模と分野

- ・大阪府は、227コース、5,671人の定員で実施する。
- ・訓練受講者の就職率は80%を目指す。

訓練種別	コース数	定員	主な訓練科目

離職者等再就職訓練	188	4,891人	Webデザイン+プログラミング基礎科(4か月) 介護職員初任者養成研修科(2か月) 保育士養成コース(2年) 医療事務+OA基礎科(3か月) 日本語教師養成科(5か月) 経理事務実践科(4か月) 自由提案科目(ファイナンシャルプランナー科(4か月)【短時間訓練】、情報セキュリティマネジメント科(6か月)他)
離職者等再就職訓練 (企業実習付)	39	780人	グラフィックデザイン実践科(4か月) 経理事務エキスパート実践科(5か月) AIプログラマー基礎実践科(5か月) Javaプログラマー実践科(5か月) 等
合計	227コース	5,671人	

- i 子育て中の方等を支援するため、離職者等再就職訓練のうち知識等習得コース及び企業実習付きコースの全214コースに「ひとり親家庭の父母優先枠」を設定(優先枠992人)、託児サービス付きのコースを設定(186コース)
- ii 子育て中の方等に配慮した短時間訓練コースを設定(40人)
- iii 能力開発機会に恵まれなかった非正規雇用労働者等を対象に、国家資格等の高い職業能力の習得により、正社員就職を目指す「長期高度人材育成コース」の継続(166人)

(3) 求職者支援訓練に係る実施規模と分野

・令和5年度においては、引き続き、非正規雇用労働者や自営廃業者等の雇用保険の基本手当を受けられない者に対する雇用のセーフティネットとしての機能が果たせるよう、訓練認定規模9,518人を上限とする。基礎的能力を習得する職業訓練(基礎コース)を全体の17%、実践的能力を習得する職業訓練(実践コース)を全体の83%設定する。

・訓練修了者の雇用保険適用就職率は、基礎コースで58%、実践コースで63%を目指す。

	認定上限値	(占有率)
基礎コース計	1,618人	(17%)
実践コース計	7,900人	(83%)
介護福祉	1,260人	
医療事務	480人	
デジタル	2,220人	
(I T)	(1,220人)	
(W E Bデザイン系)	(1,000人)	
営業・販売・事務	1,520人	
クリエイト・デザイン(WEB系除く)	650人	
理美容	400人	
その他	890人	

若者正社員育成コース	480人
計	9,518人

・これまで公的職業訓練の実施機会が少なかった地域（大阪市地域以外）での訓練機会を確保するため、基礎コースの計画数の一部に「地域ニーズ枠」を設ける。また、若者の正社員就職を目指すための訓練設定を行うため、実践コースの計画数の一部に「地域ニーズ枠」を設ける。地域ニーズ枠については、実績の有無にかかわらず新規枠と同様の方法で選定する。

・就職氷河期世代対応訓練コースとして、安定的な就職に有効な資格を取得できるコースを設定する。

・子育て中の求職者の訓練受講機会確保のための職業訓練コースの設定や、若者の正社員就職を目指すための訓練の設定に努めるとともに、人材不足分野とされている分野・職種についても、地域における産業の動向や求人ニーズを踏まえたものとする。

・新規参入枠については、上記訓練認定規模に対して下記割合を上限に認定する。

基礎コース（地域ニーズ枠以外） 30%

実践コース（地域ニーズ枠以外） 30%

注 地域職業訓練実施計画で定めたコース別・分野別の訓練実施規模を超えては認定しない。

申請対象期間の設定数を超える認定申請がある場合は、

(ア)新規参入枠については、職業訓練の案等が良好なものから認定する。

(イ)実績枠については、求職者支援訓練の就職実績等が良好なものから認定する。

(ウ)地域ニーズ枠は、実績の有無に関わらず新規参入枠と同様の方法で認定する。

・大阪府地域においては、1ヶ月ごとに求職者支援訓練を認定する。認定単位期間ごとの具体的な定員及び認定申請受付期間については、大阪労働局及び(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構大阪支部のホームページで周知する。

・訓練実施施設の所在地が政令市（大阪市、堺市）以外の市町村にあっては、同一訓練分野で認定する訓練コースは基礎コース、実践コースそれぞれ2コースを上限とする。

・1つの申請書提出期間内において、訓練実施機関（法人及び個人単位）が申請できるコース数は、全分野を通じて3コースまでとする。

・第2四半期以降においては、定員数が少なかった場合の繰越し分及び中止となったコースの繰越し分について、基礎コースと実践コース間の振替や、実践コースの他分野への振替を可能とする。

2 在職者に対する公共職業訓練

在職者を対象に、機械・電気・ビジネス能力などのキャリアアップのための訓練を実施する。

・大阪府は、88コース、957人の定員で実施する。

校名	コース数	定員	科目名
北大阪高等職業技術専門校	12	84人	空調調和と換気設備の基本計画科、PLCシーケンス制御の基本科、建築住宅模型作成入門科、プログラミングの初歩科等
夕陽丘高等職業技術専門校	32	391人	建築CAD科、消防設備士試験対策科、労務管理業務の基礎科、ビル清掃実務科等

東大阪高等職業技術専門校	22	230 人	機械 C A D 科、電気工事士受験対策科、マシニングセンタプログラム科、機械図面の読み方・描き方科等
南大阪高等職業技術専門校	22	252 人	冷凍機械責任者受験対策科、電気基礎知識科、I T パスポート試験対策科、低圧電気取扱業務特別教育科等
合 計	88 コース	957 人	

・(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構大阪支部は、570 コース、7,036 人の定員で実施する。

校 名	コース数	定 員	科 目 名
関西職業能力開発促進センター	457	5,300 人	メカトロニクス技術科、産業機械科、制御技術科、生産技術科、電気技術科、電子技術科、電気エネルギー制御科、建築設備科
近畿職業能力開発大学校	113	1,736 人	建築科、住居環境科、生産技術科、電気エネルギー制御科、電気技術科、電子技術科、電子情報技術科
合 計	570 コース	7,036 人	

i 上記計画以外に生産性向上支援訓練(定員 2,250 人)を計画し、D X 人材育成の推進に寄与する技能・知識等を習得するための訓練コースの設定を推進【関西職業能力開発促進センター】

・大阪府は、障がい者向けの在職者訓練を、14 コース、90 人の定員で実施する。

校 名	コース数	定 員	科 目 名
大阪障害者職業能力開発校	14	90 人	パソコン操作科、プログラミング基礎科、機械 C A D 基礎科
合 計	14 コース	90 人	

3 学卒者に対する公共職業訓練

18 歳以上の若者を主な対象に、ものづくり分野等の人材を育成するための施設内訓練を実施する。

・大阪府は、13 科目、395 人の定員で実施する。

・訓練受講者の就職率は 90%を目指す。

校 名	定 員	科 目 名
北大阪高等職業技術専門校	150 人	3 D モデルクラフト科、ロボテックオートメーション科、I C T プログラミング科、建築設計科、

		建築設備科、インテリア木工科
東大阪高等職業技術専門校	25 人	電気工事科
南大阪高等職業技術専門校	220 人	自動車・車体整備科、情報通信科、Webシステム開発科、電気主任技術科、空調設備科、化学ビジネス科
合 計	395 人	13 科目

- ・ (独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構大阪支部は、10 科目、475 人の定員で実施する。
- ・ 訓練受講者の就職率は 95% を目指す。

校 名	定 員	科 目 名
近畿職業能力開発大学校	445 人	生産技術科、生産機械システム技術科、電気エネルギー制御科、生産電気システム技術科、電子情報技術科、生産電子情報システム技術科、住居環境科、建築施工システム技術科、メカトロニクス技術科
関西職業能力開発促進センター 大阪港湾労働分所	30 人	港湾荷役科
合 計	475 人	10 科目

4 障がい者等に対する公共職業訓練

(1) 施設内訓練に係る実施規模と分野

- ・ 大阪府は、26 科目、304 人の定員で実施する。
- ・ 訓練受講者の就職率は 80% を目指す。

校 名	定 員	科 目 名
北大阪高等職業技術専門校	20 人	ワークトレーニング科
夕陽丘高等職業技術専門校	40 人	ワークアシスト科、キャリアチャレンジ科、ジョブステップ科
大阪障害者職業能力開発校	115 人	CAD 技術科、OA ビジネス科、Web デザイン科、オフィス実践科、ワークサービス科、職域開拓科、Job チャレンジ科
大阪障害者職業能力開発校 障害者特別委託訓練	129 人	ビジネス科電話交換コース、ビジネス科会計・経営コース、情報処理科パソコン活用コース、オフィス実務科、ビジネスパートナー科、ワーキングスキル科、ワークアドバンス科、ジョブ・コミュニケーション科、ICT テレワーク科、OA 実務科、実務作業科、総合流通科、パン・菓子製造科、

		園芸科、グリーンハーベスト科
合 計	304 人	26 科目

(2) 委託訓練に係る実施規模と分野

- ・大阪府は、188 人の定員で実施する。
- ・訓練受講者の就職率は 55% を目指す。

訓練種別	定 員	訓練月数
知識・技能習得訓練コース (集合訓練)	39 人	3 か月
知識・技能習得訓練コース (日本版デュアルシステム)	24 人	4 か月
実践能力習得訓練コース	35 人	1 か月
e-ラーニングコース	15 人	3 か月
支援学校等早期訓練	25 人	1 か月
在職者訓練コース	50 人	3 か月以内
合 計	188 人	

第5 その他、職業能力の開発及び向上の促進のための取組等

1 関係機関との連携 ～大阪府内における資源をフル活用～

大阪労働局、大阪府、(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構大阪支部、有識者、産業界、職業訓練機関等が連携し、大阪府内における職業訓練ニーズに応じた訓練を総合的かつ一体的に企画立案、実施するとともに、職業訓練機関と公共職業安定所(以下「ハローワーク」という。)、OSAKA しごとフィールド等の就業支援機関が連携し、訓練から就職までを一貫して支援する。

2 公的職業訓練の受講者の能力及び適性に応じた公的職業訓練の実施

ジョブ・カードを活用したキャリアコンサルティングなど、労働者のキャリア形成に資する情報提供及び相談援助を行い、公的職業訓練の受講者の能力及び適性に応じた公的職業訓練を実施するものとする。

3 公的職業訓練の周知・広報の実施

公的職業訓練の愛称・キャッチフレーズ「ハロートレーニング～急がば学べ～」やロゴマーク「ハロトレくん」「とれゴン」を使用し、公的職業訓練について広く求職者に周知するため、大阪労働局、大阪府、(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構大阪支部が連携し、以下の事項に取り組む。

- (1) 訓練コース周知用冊子、ポスター等を作成、府内関連施設等へ配布し、広く制度の周知を行う。
また、ハローワークにおいて、公的職業訓練が有効と見込まれる者等(生活困窮者、ひとり親等)に的確な誘導が図られるよう引き続き取り組む。
- (2) 職業能力開発機会を必要とする求職者を適切に誘導するため、大阪府立高等職業技術専門校及び関西職業能力開発促進センターにおける訓練校説明会、オープンキャンパス等を実施する。また、各ハローワークにおいて職業訓練機関による学校説明会を定期的に開催する。
- (3) わかものハローワーク利用者等に対し、訓練校見学会・事業所見学会等を通じて、若者の職種志向の転換を図り、人材不足である製造業等における人材確保の促進に資するためのツアー型見学会等を開催する。また、マザーズハローワーク・ハローワーク内マザーズコーナーにおいて、託児サ

ービス付き訓練や短時間訓練コースの説明会を開催する。

(4) ハローワークにおいて、企業における在職者訓練の活用促進が確実に図られるよう、積極的な周知広報を行う。

4 地域におけるリスクリングの推進に関する事業

地域に必要な人材確保を確保するため、経営者等の意識改革・理解促進や、従業員（在職者）の理解促進、リスクリング実施の支援など、リスクリングの推進に資する事業を実施することができる。
なお、具体的な事業の実施に当たっては、大阪府地域職業能力開発促進協議会において報告する。

【資料5】

その他報告内容

求職者・就活者の方へ

観光案内所・旅行会社スタッフ

言語を活かして働く！

観光業への転職に！



受講生募集のご案内

観光情報コミュニケーション科

訓練実施期間：令和5年10月25日～令和6年1月24日

【募集期間・募集定員】

募集期間：令和5年9月1日（金）～令和5年9月21日（木）

受付時間：平日10:00～17:00

受付先：06-6267-1168

株式会社アレスコ 職業訓練事業部（担当：青戸・邵）

定員：15名

応募方法

①受講ご希望の方は、管轄ハローワークでご相談の上
受講申込書の交付を受けて下さい。

②募集期間（令和5年9月1日～令和5年9月21日）に

まずは電話でご連絡の上

受講申込書を持参、またはご郵送ください。

電話番号：06-6267-1168 アレスコ医療通訳スクール

③受講申込書が到着しましたらお電話でご連絡します。

申込締切後、選考日の来校時間、詳細をお知らせします。

選考日当日は面接・簡単な筆記試験を行います。 ※選考時、外国語での簡単な質疑応答あり

【選考会場】アレスコ医療通訳スクール

【当日のお持物】筆記用具

選考日：令和5年9月29日（金）

結果通知日：令和5年10月6日（金）

選考及び訓練実施場所は

裏面をご覧ください。

〒542-0081

大阪府大阪市中央区南船場2丁目4-1

美貴ビル8F

訓練実施機関 株式会社アレスコ

06-6267-1168

施設見学&授業内容の説明会

令和5年9月11日(月)10:00～・14:00～

上記以外の日でも対応します。

お気軽にお電話下さい



《訓練目標》

基礎的な観光知識を言語と共に学習し、円滑な人間関係のためのコミュニケーションやビジネスマナーはもちろん、アテンドに必要な接遇を学び、即戦力として活躍できる人材として早期就業を目指します。

《訓練対象者の条件》

日本語での読み書きと日常会話に加え、中国語または英語または韓国語またはベトナム語で読み書き・日常会話のできる方

◆訓練概要◆

訓練コース番号：【5-05-27-001-08-6285】

訓練コース：基礎コース

訓練科名：観光情報コミュニケーション科

訓練期間：令和5年10月25日～令和6年1月24日

10/25入校式は9:30-12:20・1/24修了式は9:30-11:20

その他の日程は9:30-16:00です

訓練時間：9:30～16:00

訓練内容：裏面参照

自己負担：テキスト代（¥9,240）税込み

修了後に取得できる資格：ビジネス実務マナー検定3級

※受験料は受講者の負担です コミュニケーション検定初級

※資格試験は任意受験です

感染症予防対策として

・石鹸での手洗い

・うがいの周知

(手洗い場に石鹸の常備あり)

・入口に消毒液の設置

・こまめな換気

・毎朝の体温測定実施

などに取り組んでいます

◆訓練内容◆

職業能力開発講習	①社会保険と年金	社会保険概要(公的医療保険・労働災害保険・雇用保険・厚生(国民)年金制度)、マイナンバー概要
	②ビジネスマナー	ビジネスマナー(挨拶・身だしなみ・姿勢・言葉遣い・コミュニケーション)
	③職業倫理 労働法の基礎知識	職場での倫理について(ハラスメント)・SNS利用の注意点・知っておきたい労働法と会社での諸規定(就業規則・労使協定・労働協約)
	④健康管理	働く人の健康管理・心の健康/ストレスコントロール(ストレスチェック)・感情のコントロール(アンガーマネジメント)
	⑤コミュニケーション	自己概念、好き・嫌い(価値観)、聴き方(傾聴力)、話し方(発信力)の向上、自分も相手も大切に表現
	⑥職場のコミュニケーション	職場における必須事項(報告/連絡/相談)・適切な伝え方の向上、グループにおけるコミュニケーションのポイント
	⑦就職活動の進め方	就職活動全般(就職のプロセス)・キャリアプランを踏まえた就職活動の進め方
	⑧求人動向とポイント	訓練内容に関連した求人動向・産業界の近況とポイント
	⑨応募書類の重要性	応募書類を作成する意義、履歴書・職務経歴書のポイント、志望動機・自己アピールの重要性、送付の際の留意点
	⑩面接対策の重要性	面接の目的と採用者の評価ポイント、面接の準備とマナー、面接シミュレーション
	⑪求人情報の収集	求人票の見方・ポイント、求人票の検索・収集、企業情報収集、情報収集の習慣化
	⑫訓練受講の動機と目標	就職に向けた訓練受講の意義、働く力を高めるスキル(専門能力以外)の必要性、今後の目標と習得すべき能力
	⑬自己理解	自分の特徴などをみつまねおす就業経験の棚卸し、自分の強み、興味関心、価値観の振り返り、他己理解
	⑭仕事理解	関連職種・希望職種に求められるスキル、職業意識と勤労観
	⑮職業生活設計	職業生活の振り返りと今後、ジョブ・カード制度の概要・目標設定票の作成
学科	入校式・オリエンテーション、修了式	入校式・オリエンテーション(3H)、修了式(2H)
	安全衛生	安全衛生の必要性
	日本の歴史と文化	日本の文化や習慣に関する基礎知識・日本の食文化・大阪の地域文化と観光地
	インバウンド観光の基礎知識	インバウンド旅行観光案内業務の概要・大阪の観光スポットの基本情報・医療ツアーの概要・健康診断・通訳について
	大阪の交通網知識	大阪の公共交通機関・主要駅やスポットの学習、関西の交通網
	観光動向知識	訪日旅行者の状況、観光白書
	旅程管理、関連法規の知識	通訳案内士制度と関係法令の基礎知識
実技	接客マナー演習	観光客に対する接客マナー・接遇・電話対応・メール対応・業務報告書の書き方
	観光案内に必要な外国語演習	観光案内に必要な専門用語やフレーズを活用したロールプレイング
	トラブル対応演習	トラブルに対する対応・自然災害などの緊急事態・旅行傷害保険の案内・医療機関の手配
	旅程作成演習	旅行プランの作成・交通手段の選択・宿泊施設の選定・飲食店の選定・案内業務

◆求職者支援訓練 実施場所◆

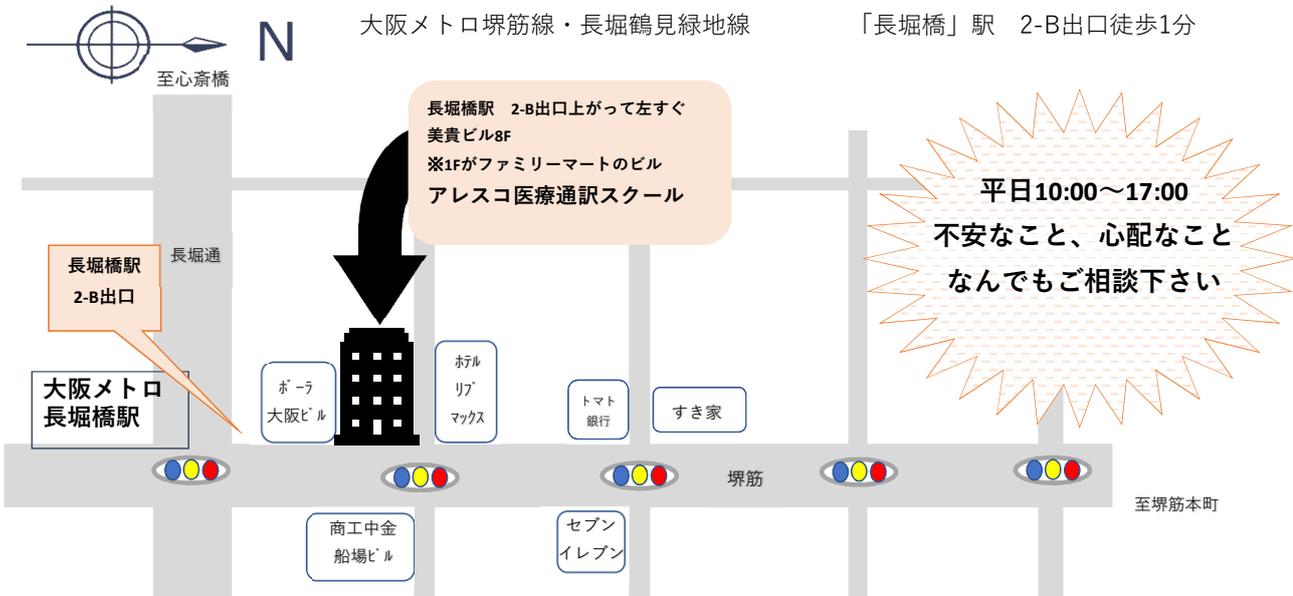
【訓練実施施設】 アレスコ医療通訳スクール

☎06-6267-1168

大阪市中央区南船場2丁目4-1 美貴ビル8F

大阪メトロ堺筋線・長堀鶴見緑地線

「長堀橋」駅 2-B出口徒歩1分



職業訓練受講給付金について

ハローワークの支援指示を受けて求職者支援訓練を受講する方が、一定の要件を満たす場合に支給されます。

支給額：職業訓練受講手当...月額10万円 通所手当...通所経路に応じた所定の額（詳しくはハローワークでお尋ね下さい）

◆その他◆

- 1) 応募人数が定員の半数に満たない場合、コース実施を中止することがあります。
- 2) 訓練終了後、修了生には就職状況の報告をお願いしています。
また、修了生本人に就職先に関する確認のご連絡をさせていただく場合がありますので予めご了承願います。
- 3) 申込時に提出された関係書類の個人情報は、求職者支援訓練実施施設の保有する個人情報の保護に関する法律を遵守し、適切に管理いたします。

言語を活かすお仕事へ！

観光案内所・旅行会社スタッフ等の観光業への転職に！

基礎的な観光知識を言語と共に学習し、
円滑な人間関係のためのコミュニケーションや
ビジネスマナーはもちろん、
アテンドに必要な接遇を学び、
即戦力として活躍できる人材として早期就職を
目指す当該コースの説明会を行います！



職業訓練校説明会

観光情報コミュニケーション科

説明会概要

日時：令和5年9月4日（月）10:00～11:30

場所：ハローワーク梅田 セミナールーム

定員：20名（先着順）

内容：10月25日（水）開講の
求職者支援訓練におけるコース案内



訓練対象者の条件

日本語での読み書き、日常会話に加えて中国語または英語または韓国語
またはベトナム語で読み書き、日常会話のできる方。

訓練実施機関 株式会社アレスコ

〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場2-4-1 美貴ビル8階

TEL：06-6267-1168



お申込みは7番職業訓練窓口もしくは
下記のお電話にて受付いたします。



 **ハローワーク梅田** 受付時間 平日 8:30～17:15

〒530-0001 大阪市北区梅田1-2-2

(大阪駅前第2ビル16F 北フロア⑦番窓口)

06-6344-8609 (部門コード45#)



「バッテリー人材育成の方向性」 アクションプランに係る取組状況について

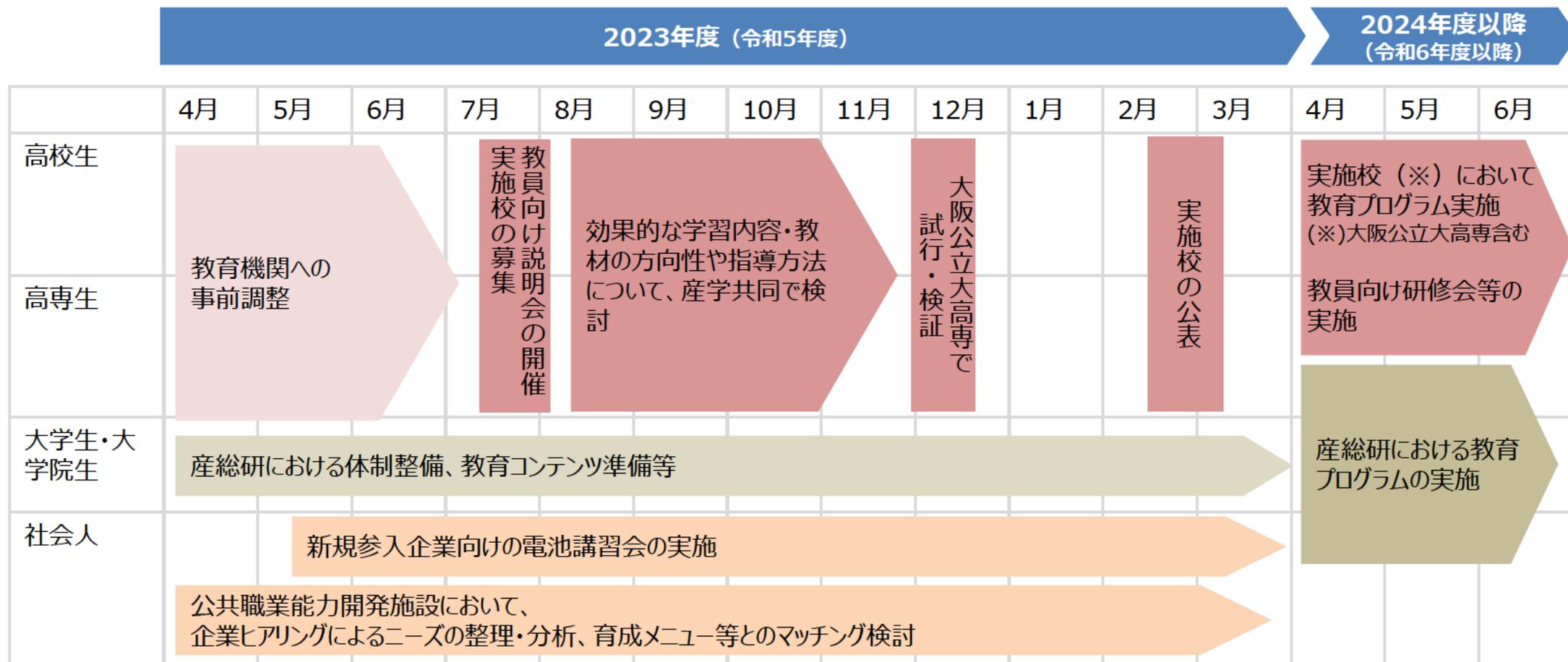
令和5年10月31日

近畿経済産業局

今後の方向性

2023.3.16 関西蓄電池人材育成等コンソーシアム「バッテリー人材育成の方向性」から抜粋

- 関西近辺では、蓄電池サプライチェーン全体で、今後5年間で合計約**1万人の雇用**が見込まれている。
- バッテリー人材の育成にあたっては、この雇用見込み人数を意識しながら、以下のようなタイムスケジュールを進めていく。
- コンソーシアムとしては、年1～2回程度、各アクションプランの進捗を共有し、産学官の意見交換等を行うことを想定。
- また、本取組をバッテリー人材育成・確保のユースケースと位置づけ、産学のニーズを踏まえた上で、全国にも展開していくことを目指す。



「バッテリー人材育成の方向性」(2023年3月)に関する主な進捗等

- 2024年度からバッテリー教育の本格導入に向けて、アクションプランに基づく取組状況は以下のとおり。

10/3
第4回本会合

3月上旬
第5回本会合

2023年度（令和5年度）

2024年度以降

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・校長会等での説明 ・産業界と一部教員によるプロトタイプ教材の検討mtgを実施 			実施校の募集 教員向け説明会開催（2回）	<ul style="list-style-type: none"> ・8月以降、効果的な学習内容・教材の方向性や指導方法について、産学共同で検討会を実施中。（9月末時点で2回開催。今後、4回程度開催予定） ・12月には、大阪公立大高専でデモ実施予定。工業高校でのデモ実施も併せて検討中。 ・1月には、産総研で教員向けに小型電池製造実習のデモを実施予定。 						教材・指導案等の周知	実施校の公表	<ul style="list-style-type: none"> ・実施校（※）において教育プログラム実施 （※）大阪公立大高専含む ・教員向け研修会等の実施 		
高専生															
大学生・大学院生	産総研 における体制整備、 教育コンテンツ準備 、大学との連携の検討等											産総研 における 教育プログラムの実施			
社会人	BASC による 企業向け電池講習会 の実施（関西、関東、九州、中部）														
	公共職業能力開発施設 における 既存メニューの活用可能性の分析 、 高校・高専生向けプログラム等の活用可能性の検討														

バッテリー教育プログラム 教員向け説明会

- 工業高校・高専等の教員に対して、バッテリー人材育成の重要性を理解いただくとともに、教育プログラムの概要を説明し、バッテリー教育の実施を検討いただくため開催。
- 7月に2回開催した説明会には、教育機関関係者・事務局・産業界を含め、延べ147名が参加。うち、教育機関関係者は116名（高校20校40名、高専22校44名）。

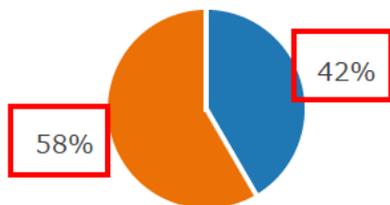
開催日時 ※同内容にて2回実施

- ①7月4日(火)10:00～11:30（オンラインのみ）
- ②7月27日(木)13:30～15:00（対面・オンライン）

アンケート結果

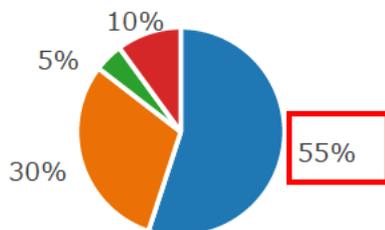
Q：バッテリー産業やバッテリーの社会的意義、バッテリー教育について、理解が深まったか

- かなり理解した…37人
- ある程度理解した…52人
- あまり理解できなかった…0人
- 理解できなかった…0人



Q：バッテリー教育を実施してみたいと思ったか

- 思った…49人
- 分からない…27人
- 思わなかった…4人
- その他（教員以外）…9人



参加教員からの主なご意見

- 実際にバッテリー教育を行った学校の授業の様子や、学生の変化についても情報共有が行われると、教員がよりバッテリー教育に取り組みやすくなると思う。
- 工業高校・高専等の学生が、バッテリー業界で具体的にどんな仕事をしているのか、学生時代に身につけておくのが望ましい技術や知識、経験について知りたい。
- 産業界から教員向けに、バッテリー業界の最新動向を伝える場を来年度以降も定期的に設けていただきたい。
- 学生にバッテリー産業に対して興味・関心を持ってもらうためには、自分の目で見ること（例：工場見学）、手を動かすこと（例：実習、コンテスト）などの体験が重要。

バッテリー教育の授業テンプレート検討会 概要

- 主に高校生・高専生を対象とする「バッテリーについて学びながら興味関心を持つ」きっかけとなる教育プログラムについて、教材の方向性、効果的な学習内容や指導方法等を議論する検討会を開催。
- 学生に響く内容かつ教育機関において広く導入・横展開が可能な構成・内容となるよう、教育機関(高校・高専の教員)・産業界が共同で教育プログラムの具体化を進める。

開催時期

令和5年8月～令和6年2月頃

開催形式

対面及びオンラインにより、計6回程度を予定
(既に8月に2回実施済み)

検討事項

- 授業テンプレートの作成
(教員向けの指導手引き、学生用のワークシート、ループリック等)
- プロトタイプ教材のブラッシュアップ

参画メンバー

産業界	(一社) 電池工業会
	(一社) 電池サプライチェーン協議会
	パナソニックエナジー (株)
	プライムプラネットエナジー&ソリューションズ (株)
高校	(株) GSユアサ
	大阪府立東淀工業高校
	兵庫県立姫路工業高等学校
	兵庫県立洲本実業高等学校
	兵庫県立龍野北高等学校
	兵庫県立神戸工業高等学校
高専	和歌山県立和歌山工業高等学校
	神戸市立科学技術高等学校
	大阪公立大学工業高等専門学校
受託事業者	国立高等専門学校機構 石川工業高等専門学校
	国立高等専門学校機構 新居浜工業高等専門学校
	(株) エナジード

※オブザーブ参加：大阪府教育庁、兵庫県教育委員会、和歌山県教育委員会、国立高専機構

第1,2回 バッテリー教育の授業テンプレート検討会

- 8月3日、第1回検討会をオンラインで開催。社内研修資料を活用して産業界が作成したプロトタイプ教材について、産業界から模擬授業を行った後、意見交換を実施。今後の検討会における議論の基礎となる「バッテリー教育を通して学生に伝えたい内容」に関して、産学の理解を深めた。
- 8月24日、第2回検討会を対面とオンラインのハイブリッド形式で開催。第1回検討会を受けて、プロトタイプ教材に対する教員の意見も踏まえながら、授業内容のボリュームや難易度、能動的な学習にするためのアイデアについて議論した。

議論要旨

- バッテリーに関する基礎的な知識・理解を一定備えた上で、興味関心を広げる内容を学ぶことで、より効果的な授業になると思う。専門知識はなるべくシンプルに、かつ授業内容との繋がりを意識しながら伝えられるとよい。
- 工業高校生や高専生の多くは技術者を目指しているため、技術的な課題にフォーカスしたテーマ・ワークを準備することで能動的な学習に繋がられる。
- バッテリー教育の導入時は、教員が各校の学習状況に応じて、ベースとなる指導案にアレンジを加えることとなる。指導案には、知識の幅・深さともに広く掲載しておく、現場で使いやすい。



8月24日 第2回検討会の様子

【参考資料】

**第 1 回中央職業能力開発促進協議会資料
(抜粋)**

ハロートレーニング（公的職業訓練）に係る 令和6年度概算要求

資料6-1

公共職業訓練 （障害者訓練を除く）

要求額 約1,021億円（約998億円）
訓練規模 約35.4万人（約35.3万人）

要求額 訓練規模

	要求額	訓練規模
離職者訓練		約15.1万人（約15.5万人）
施設内訓練	約668億円（約653億円）	約3.3万人（約3.4万人）
委託訓練	約354億円（約345億円）	約11.9万人（約12.1万人）
在職者訓練 （生産性向上支援訓練を含む）	※	約18.2万人（約17.8万人）
学卒者訓練	※	約2.1万人（約2.1万人）

※ 公共職業訓練のうち、離職者訓練（施設内訓練）、在職者訓練及び学卒者訓練の予算は切り分けができないため、予算額については、離職者訓練（施設内訓練）に含めて計上。

要求額
訓練規模

約1,186億円（約1,162億円）
約40.9万人（約40.9万人）

障害者訓練

要求額 約54億円（約54億円）
訓練規模 約0.6万人（約0.6万人）

要求額 訓練規模

	要求額	訓練規模
離職者訓練	約54億円（約54億円）	約0.5万人（約0.5万人）
施設内訓練	約40億円（約39億円）	約0.2万人（約0.2万人）
委託訓練	約14億円（約14億円）	約0.3万人（約0.3万人）
在職者訓練		約0.1万人（約0.1万人）
施設内訓練	※	約0.1万人（約0.1万人）
委託訓練	※	約0.03万人（約0.03万人）

※ 障害者訓練のうち、在職者訓練の施設内訓練及び委託訓練の予算は切り分けができないため、予算額については、離職者訓練に含めて計上。

求職者 支援訓練

要求額 約110億円（約109億円）
訓練規模 約4.9万人（約5.0万人）

（求職者支援制度全体 約269億円（約268億円））

公共職業訓練（離職者訓練）
+ 求職者支援訓練

訓練規模
約20.0万人
（約20.5万人）

令和6年度概算要求額 **551億円（546億円）** ※（）内は前年度当初予算額

労働保険特別会計			一般会計
労災	雇用	徴収	
	9/10		1/10

1 事業の目的

「デジタル田園都市国家構想総合戦略」（令和4年12月閣議決定）において、職業訓練のデジタル分野の重点化等により、令和8年度末までに政府全体で230万人のデジタル推進人材を育成することとされているほか、デジタル田園都市国家構想を実現するためには、全ての労働人口がデジタルリテラシーを身に付け、デジタル技術を活用できるようにすることが重要であるとされている。

このため、公共職業訓練（委託訓練）及び求職者支援訓練を実施する民間教育訓練機関に対する、**①デジタル分野の訓練コースの委託費等の上乗せを拡充する**ほか、**②オンライン訓練においてパソコン等の貸与に要した経費を委託費等の対象とする**ことにより、デジタル推進人材の育成を行う。また、これらのデジタル分野の訓練コースを受講する方に対し、引き続き、生活支援の給付金（職業訓練受講給付金）の支給を通じて早期の再就職等を支援する。さらに、全国87箇所の生産性向上人材育成支援センター（独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構）において、在職者に対して実施する**③DXに対応した生産性向上支援訓練の機会を拡充**し、中小企業等のDX人材育成を推進する。

上記に加え、**④デジタル分野以外の訓練コースにおいても基礎的なデジタルリテラシーの向上促進を図る**。

2 事業の概要

①デジタル分野の委託費等の上乗せ拡充

(1) DX推進スキル標準に対応した訓練コース又はデジタル分野の資格取得率等が一定割合以上の訓練コースの場合、委託費等上乗せ **【拡充】**

(IT分野の資格取得率等が一定割合以上の訓練コースは、一部地域を対象に更に上乗せ)

(2) 企業実習を組み込んだデジタル分野の訓練コースについて、委託費等を1人当たり2万円上乗せ

②オンライン訓練におけるパソコン等の貸与の促進

デジタル分野のオンライン訓練（eラーニングコース）において、受講者にパソコン等を貸与するために要した経費を、1人当たり月1.5万円を上限に委託費等の対象とする

③生産性向上支援訓練（DX関連）の機会の拡充

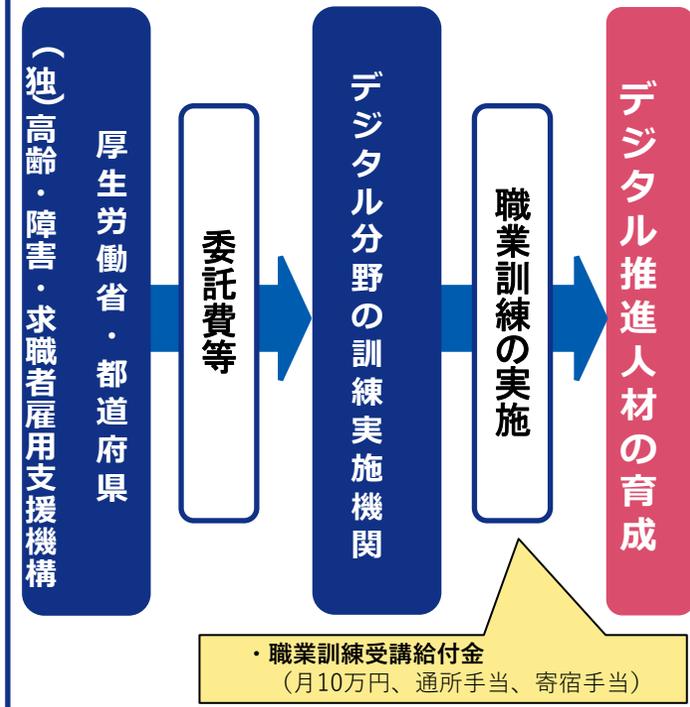
中小企業等の在職者に対して実施する、民間教育訓練機関を活用した生産性向上支援訓練（DX関連）の機会を拡充する **【拡充】**

④基礎的なデジタルリテラシーの向上促進

デジタル分野以外の全ての公共職業訓練（委託訓練）及び求職者支援訓練の訓練コースにおいて、訓練分野の特性に応じ、基礎的なデジタルリテラシーの要素を訓練内容に加味する。

※①～②は令和8年度末までの時限措置

3 スキーム・実施主体等



令和6年度概算要求額 3.3億円（-）※（）内は前年度当初予算額

労働保険特別会計			一般 会計
労災	雇用	徴収	
	○		

1 事業の目的

変化の激しい企業のビジネス環境に対応するために労働者のスキルアップが求められている中で、正社員に対してOFF-JTを実施した事業所割合が70.4%に対し、正社員以外に対しては29.6%と、正社員以外の労働者の能力開発機会は少ない状況にあり、非正規雇用労働者等が働きながらでも学びやすく、自らの希望に応じた柔軟な日時や実施方法による職業訓練を受講できるような仕組みを構築し、非正規雇用労働者等のリ・スキリングを支援することが必要である。

このため、在職中の非正規雇用労働者等の受講を前提とした様々な受講日程、実施手法等の職業訓練を試行的に実施することにより、非正規雇用労働者等のキャリアアップに効果的な職業訓練の検証を行う。

2 事業の概要・スキーム

（1）試行事業の実施

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構において、非正規雇用労働者等を対象とした職業訓練を民間教育訓練機関等への委託により実施するとともに、当該職業訓練の結果を踏まえ訓練効果・課題の検証を実施。

（2）試行事業の内容等

ア 対象者

主に非正規雇用労働者 720名（80人×9コース）

イ 実施方法等

受講継続等に効果的であるスクーリング形式と、場所や時間を問わず受講しやすいオンライン（オンデマンド、同時双方向）形式を効果的に組み合わせて実施することを想定。

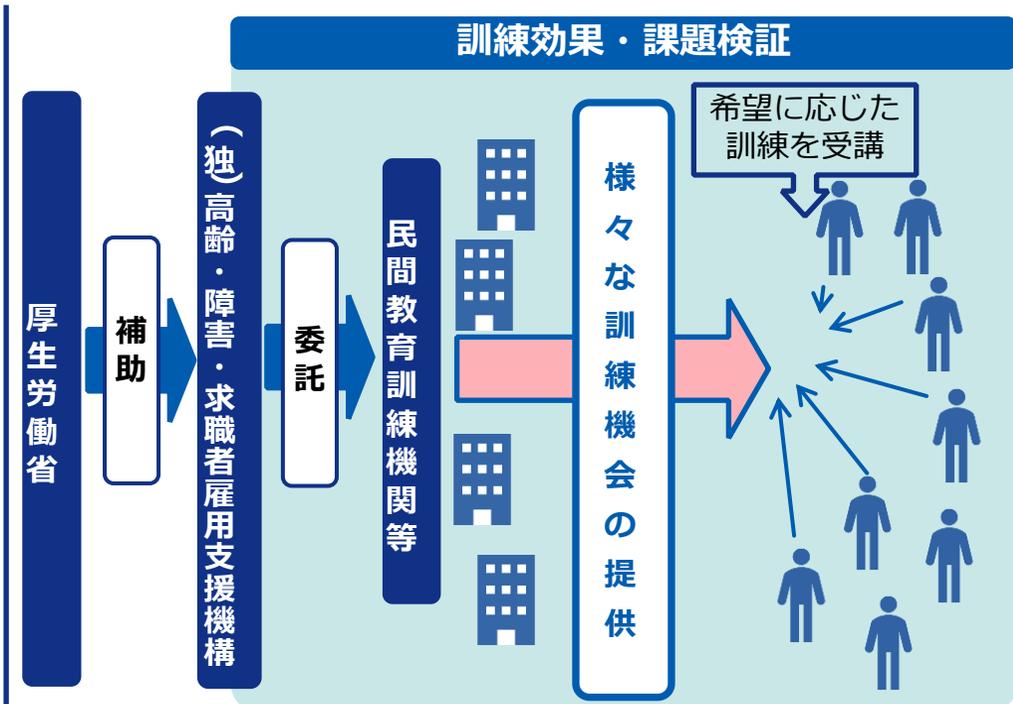
ウ 総訓練時間・受講可能期間

150時間程度。受講可能期間最大9か月

エ 受講継続等の支援策

実施機関において、受講継続奨励や学習の進捗状況に応じた支援を担当制で行う学習支援者の配置等を実施。

3 実施主体等



令和6年度概算要求額 13億円（-） ※（）内は前年度当初予算額

労働保険特別会計			一般会計
労災	雇用	徴収	
	○		

1 事業の目的

不足するデジタル人材の育成が急務である中、以下の2つのタイプの人材はOFF-JTだけでは不十分で実務経験が必要とされている。

- ①他職種からIT人材に転職を目指す者のうち中高年齢者は、公的職業訓練等を修了し一定のスキルを得ても未経験のため就職率が低い傾向(※1)。
- ②IT以外の産業分野の企業のDX推進のためには、企業内に、DXを推進する人材が必要だが、こうした人材は座学講座だけでは足りず、実践の場を通じて経験を積むことが必要(※2)。

このため、①、②のケースのための「実践の場」を創出するモデル事業を実施し、その効果・課題等を把握し、より効率的・効果的な支援の在り方を検証する。(事業実施期間：令和6年度～7年度)

※1 公共職業訓練修了後の就職率 全体20歳代68.2%、デジタル65.7%、**全体35歳以上63.0%、デジタル53.5%** (令和3年度 公共職業訓練(都道府県分))

※2 デジタル人材育成のため「自社のe-ラーニング」(59.3%)を実施しているものの、「取り組んでいるがDXにつながらない」(28.2%)、「推進できる人がいない」(27.4%)傾向がある。

育成が必要なDX人材は「現場でDXを企画・推進するデジタル変革人材」(65.6%)、「現場でデジタルを活用できるデジタル活用人材」(46.2%)などと考えられており、現場でのアウトプットも含めた「実践的な学び」の機会が必要(パーソルプロセス&テクノロジー株式会社「DX・デジタル人材育成トレンド調査2022」)

2 事業の概要・スキーム・実施主体等

